Okinawa Prefectural University of Arts

オープンキャンパス 2020

6/14 日　美術工芸学部
　　音楽学部

8/1 土　美術工芸学部
　　音楽学部

10/11 日　音楽学部

2021
3/20 土　美術工芸学部

詳細はホームページでご案内します！

沖縄県立芸術大学
OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS
〒903-8602　沖縄県那覇市首里当蔵町１丁目４番地
TEL 098-882-5000（代 表）　FAX 098-882-5033

沖縄県立芸術大学　大学案内　2020

Okinawa Prefectural University of Arts



2020 Okinawa Prefectural University of Arts

Contents

01 学長あいさつ
02 建学の理念・沿革
03 大学の教育研究上の目的
04 大学組織図・在学生数
05 教員名簿・教職員数
06 教育組織・教育分野・研究領域・学年歴

08 美術工芸学部

10 絵画専攻
12 彫刻専攻
14 芸術学専攻
16 デザイン専攻
18 工芸専攻　染分野・織分野・陶芸分野・漆芸分野
22 第31回卒業・修了作品展／卒業・修士論文発表会
23 美術工芸学部の地域貢献

24 音楽学部

26 音楽表現専攻　声楽コース・ピアノコース・弦楽コース・管打楽コース・作曲理論コース
32 音楽文化専攻　沖縄文化コース・音楽学コース
34 琉球芸能専攻　琉球古典音楽コース・琉球舞踊組踊コース
36 奏楽堂
37 音楽学部の地域貢献

38 全学教育センター

全学教育科目・おきげい教養講座・資格課程

大学院

40 造形芸術研究科　修士課程
41 音楽芸術研究科　修士課程
42 芸術文化学研究科　後期博士課程

43 附属研究所
44 附属図書・芸術資料館
45 施設紹介
46 卒業後の進路
48 活躍する卒業生
49 国際交流
50 学費・奨学金
51 学生生活サポート
52 入試情報
53 アクセスマップ

表紙デザイン　又吉　浩

学長あいさつ
Greeting from the President



沖縄県立芸術大学は、かつて海洋国家として栄えた琉球國の由緒ある地、首里に1986年に開学して以来、今年で35年目を迎えます。本学の建学の精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展はもとより、新たな芸術創造の可能性を広げ、世界の芸術文化の向上発展に寄与できる人材の育成を教育の理念に掲げています。

自由な精神を礎に人間性を表す芸術活動は、優れて人間らしい営為です。先史の洞窟画や縄文の造形が物語るように、原始太古より創造行為は人類の生活と共にありました。そして、今日の高度情報化社会においては、今まで以上に、人には豊かな感性や自然観が求められます。したがって芸術諸領域に携わる者には、今後ますます社会的役割が期待されると同時に、責任ある場面も増してくることでしょう。

本学は、そのような次代を担う豊かな人間性と社会性、国際的視野を備えた作家や演奏家、実演家、研究者、教育者などの専門家として、幅広く社会で活躍できる人材の育成を念頭に、個性の伸長を期した少人数教育を行っています。その中で、芸術を志す人に求められる多様な価値観への理解と、多角的な視点の獲得を共に目指します。現代のICT社会にあっては世界の平準化は進むばかりです。だからこそ芸術の多様性、独創性の源泉である、既存の価値観に囚われない批評的精神を、生涯を通して更新し続けたいものです。

世界的な遺跡が散在するこの美しい南の島には、大交易時代から現代に至るまで異文化を受容し個性ある優れた文化芸術を創造してきた歴史と、都市部にあっても大自然の変化を間近に感じることができる得難い環境があります。この沖縄の歴史と環境は自ずと、芸術と共に人生を歩んで行くのに必要な柔軟で強かな精神を育んでくれるに違いありません。

沖縄県立芸術大学　学長
波多野　泉

建学の理念

Founding Principles

日本文化の中における沖縄の地域文化の特性と伝統は、極めて特徴的であり、文化伝統の源流を探り、文化生成の普遍性を究めるために不可欠の内容を持つものである。わけても沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の継承と創造の問題は、日本文化としてはもちろんのこと、沖縄県にとっても重要な課題であるといわざるを得ない。そして、それらを担う人材の育成もまた長い未来への架橋として緊要なことである。

県立芸術大学を建学する基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあるが、そのためには、地域文化の個性を明らかにし、その中に占める美術・工芸・音楽・芸能等さまざまな伝統芸術の問題に積極的かつ具体的に取り組み、その特性を生かすことでなければならない。このことは、日本文化の内容をより豊かにするとともに、ひいては、国際的な芸術的文化活動にも寄与するものと信ずる。

我が国の最南に位置する県立芸術大学は、東アジア、東南アジアを軸とした太平洋文化圏の中心として、それらの地域における多様な芸術文化の実態と、地域文化伝統の個性とのかかわりを明らかにし、その広がりを追究し、汎アジア的芸術文化に特色をおいたユニークな研究教育機関にしたい。

沿革

History

昭和61年３月31日	一般教育棟・管理棟竣工
昭和61年４月１日	沖縄県立芸術大学開学　初代学長　山本正男　就任
昭和62年11月４日	沖縄県立芸術大学芸術振興財団設立許可
昭和63年３月17日	美術棟竣工
昭和63年10月７日	登り窯竣工（工芸専攻）
平成元年３月26日	体育館竣工
平成２年３月26日	第１回卒業式
平成２年４月１日	音楽学部設置
平成２年５月８日	音楽棟竣工
平成２年５月15日	開学５周年・音楽学部開設記念式典開催
平成５年３月19日	大学院修士課程造形芸術研究科設置
平成６年４月１日	大学院修士課程音楽芸術研究科設置
平成６年７月31日	附属図書・芸術資料館竣工
平成７年３月31日	奏楽堂竣工
平成７年４月１日	美術工芸学部美術学科芸術学専攻開設
平成８年４月１日	大学院博士課程芸術文化学研究科設置
平成８年５月15日	開学10周年記念式典開催
平成８年10月15日	第二代学長　阿部公正　就任
平成９年３月31日	福利厚生棟竣工
平成10年３月31日	附属研究所棟竣工
平成14年10月15日	第三代学長　大嶺實清　就任
平成15年７月10日	第四代学長　朝岡康二　就任
平成16年４月１日	音楽学部音楽学科邦楽専攻を琉球芸能専攻に改称
平成16年４月１日	音楽芸術研究科舞台芸術専攻邦楽専修を琉球古典音楽専修に、楽劇専修を琉球舞踊組踊専修に改称
平成18年７月18日	第五代学長　宮城篤正　就任
平成18年10月1日～10月31日	開学20周年記念事業「平和祈念公園芸術祭」開催
平成22年７月18日	第六代学長　佐久本嗣男　就任
平成23年11月17日～11月27日	開学25周年記念事業「沖縄・タイ国際交流美術展」開催
平成23年３月31日	デザイン中央棟、工芸棟、彫刻棟竣工
平成23年10月１日	首里崎山キャンパス開設式
平成24年４月１日	デザイン工芸学科工芸専攻に漆芸分野開設
平成24年４月１日	大学院後期博士課程芸術文化学研究科に芸術表現（実技系）領域を開設
平成26年７月18日	第七代学長　比嘉康春　就任
平成28年４月１日	音楽学部を音楽表現、音楽文化、琉球芸能の３専攻に再編 音楽文化専攻に沖縄文化コースを開設
平成28年９月22日	開学30周年記念式典開催
令和2年４月１日	第八代学長　波多野泉　就任

大学の教育研究上の目的

Academic Research Objectives of the University

沖縄県立芸術大学は、広く教養を培い、深く専門芸術の技術、理論及び歴史を教授研究して、人間性と芸術的創造力及び応用力を育成し、もって伝統芸術文化と世界の芸術文化の向上発展に寄与することを目的とする。（学則第１条）

沖縄県立芸術大学大学院は、建学の理念に則り、高度な芸術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて芸術文化の創造及び発展に寄与することを目的とする。（大学院学則第１条）

大学の三つのポリシー

Three Principles of the University

ディプロマ・ポリシー

沖縄県立芸術大学では、大学及び各学部の教育理念に沿った専門教育と教養教育において成果をあげ、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出あるいは卒業演奏を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

1. 美術工芸又は音楽の分野における基本的な知識を体系的に理解し、その知識体系の意味と自己の存在を歴史や文化、社会と関連付けて理解している。
2. 知的活動や職業生活、社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決力などの汎用的基礎能力を身につけている。
3. 卒業後も社会的責任を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
4. １から３までの知識や能力等を総合的に活用し、創造的な思考力をもって自らの課題を探求し、解決する能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、４年間を通して全学教育科目を選択履修し、全学年にわたり専門分野の実技や理論を基礎から高度な内容まで、段階的に履修することを基本に授業科目を編成します。

その上で、さまざまな技術や学問を幅広く主体的に学べるよう配慮し、学生の多様な個性を尊重しつつ、自ら感性を磨き、社会との関係を考え発信していく能力を高める教育を行います。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

１　教育の理念

沖縄県立芸術大学の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展にとどまらず、新たな芸術創造の可能性を広げ、幅広く芸術分野で活躍できる人材を育成していきます。さらに、学生の専門的力量を高め、豊かな人間性と社会性を身につける教育を目指します。

２　本学の求める人材

本学の教育の理念をよく理解し、学修に必要な基礎的知識や表現技術と将来性のある豊かな芸術的感性を備えるとともに、さまざまな芸術文化に深く興味を持ち、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していく意欲に満ちた人を求めます。

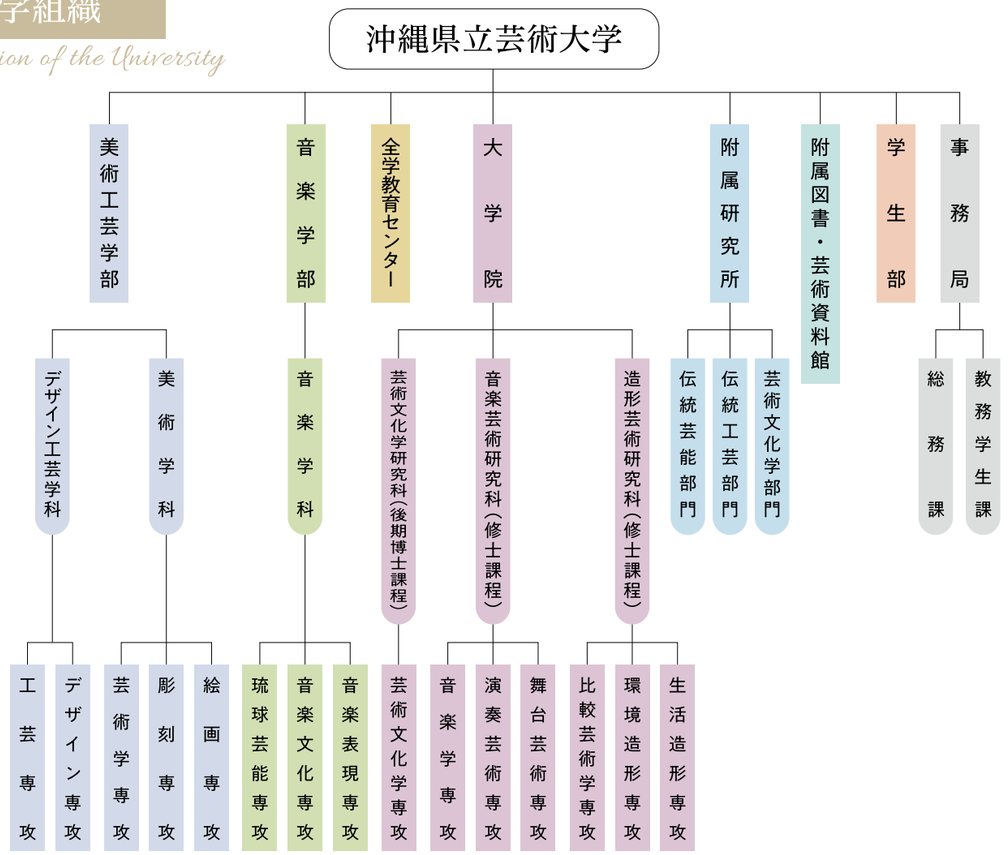
３　入学者選抜の実施

２に掲げる多様な可能性を持つ志願者を幅広く受け入れるため、本学では、一般選抜、学校推薦型選抜及び社会人選抜を実施しています。

一般選抜における入学志願者の能力等の評価及び入学者選抜の方法として、大学入学共通テストでは、国語及び外国語を中心に受験科目を課し、個別学力検査等では、各学部の教育方針やアドミッション・ポリシーに基づき、実技、小論文、口述試験、面接を実施しています。

大学組織

Organization of the University



在学生数

令和元年5月1日現在　　単位（人）

学部	学科	専攻	入学定員	総定員数	1年次 小計	1年次 県内	1年次 県外	1年次 男	1年次 女	2年次 小計	2年次 県内	2年次 県外	2年次 男	2年次 女	3年次 小計	3年次 県内	3年次 県外	3年次 男	3年次 女	4年次 小計	4年次 県内	4年次 県外	4年次 男	4年次 女	合計 小計	合計 県内	合計 県外	合計 男	合計 女
美術工芸	美術	絵画	10	40	11	8	3	4	7	14	5	9	5	9	11	5	6	3	8	16	7	9	2	14	52	25	27	14	38
		彫刻	5	20	4	1	3	0	4	7	0	7	2	5	7	2	5	5	2	8	1	7	4	4	26	4	22	11	15
		芸術学	6	24	9	4	5	2	7	6	2	4	1	5	7	5	2	2	5	6	3	3	1	5	28	14	14	6	22
	デザイン工芸	デザイン	20	80	22	15	7	4	18	22	19	3	6	16	22	18	4	6	16	22	19	3	2	20	88	71	17	18	70
		工芸	24	96	23	11	12	2	21	24	12	12	5	19	28	15	13	6	22	27	10	17	10	17	102	48	54	23	79
小計			65	260	69	39	30	12	57	73	38	35	19	54	75	45	30	22	53	79	40	39	19	60	296	162	134	72	224
音楽	音楽	音楽表現	23	69	26	15	11	4	22	25	13	12	7	18	29	9	20	7	22	20	8	12	1	19	100	45	55	19	81
		音楽文化	7	21	4	1	3	2	2	5	3	2	0	5	6	3	3	3	3	8	6	2	3	5	23	13	10	8	15
		声楽	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	0	-	-	-	-	1	1	-	-	1
		器楽	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	2	-	2	1	1	3	1	2	2	1
		音楽学	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	1	-	1	-	1	2	-	2	-	2
		琉球芸能	10	44	14	11	3	6	8	4	2	2	1	3	13	9	4	4	9	7	6	1	3	4	38	28	10	14	24
小計			40	160	44	27	17	12	32	34	18	16	8	26	51	23	28	15	36	38	20	18	8	30	167	88	79	43	124
合計			105	420	113	66	47	24	89	107	56	51	27	80	126	68	58	37	89	117	60	57	27	90	463	250	213	115	348

研究科	入学定員	総定員数	1年次 小計	1年次 本学	1年次 他学	1年次 男	1年次 女	2年次 小計	2年次 本学	2年次 他学	2年次 男	2年次 女	3年次 小計	3年次 本学	3年次 他学	3年次 男	3年次 女	合計 小計	合計 本学	合計 他学	合計 男	合計 女
造形芸術(修士)	18	36	15	8	7	8	7	22	10	12	5	17	-	-	-	-	-	37	18	19	13	24
音楽芸術(修士)	15	30	15	10	5	6	9	17	14	3	9	8	-	-	-	-	-	32	24	8	15	17
芸術文化学(博士)	3	9	3	1	2	3	0	1	1	-	-	1	8	4	4	5	3	12	6	6	8	4
合計	36	75	33	19	14	17	16	40	25	15	14	26	8	4	4	5	3	81	48	33	36	45

※平成28年度音楽学科再編により音楽表現専攻及び音楽文化専攻を設置

	合計	男	女
総合計	544	151	393

教員名簿

令和２年４月１日現在

美術工芸学部／（院）造形芸術研究科

絵画専攻	（院）環境造形専攻	教授	平山　英樹	日本画
		教授	知花　均	油画・凹版
		教授	髙崎　賀朗	油画・孔版
		准教授	香川　亮	日本画・凸版
		准教授	阪田　清子	油画・ミクストメディア
		講師	関谷　理	日本画
		助教	金城　徹	油　画
彫刻専攻		教授	波多野　泉	塑造・木彫・乾漆　他
		教授	砂川　泰彦	石彫　他
		講師	河原　圭佑	金属　他
		講師	長尾　恵那	木彫　他
		助教	早川　信志	テラコッタ　他
芸術学専攻	（院）比較芸術学専攻	教授	尾形希和子	西洋美術史
		教授	小林　純子	日本美術史
		教授	金　恵信	東洋美術史
		准教授	喜屋武盛也	美　学
		准教授	土屋　誠一	芸術学
デザイン専攻	（院）生活造形専攻	教授	仲本　賢	映像デザイン
		教授	赤嶺　雅	グラフィックデザイン
		准教授	笹原　浩造	グラフィックデザイン
		准教授	髙田　浩樹	プロダクトデザイン
		准教授	宮里　武志	環境デザイン
		准教授	又吉　浩	メディアデザイン
		講師	赤塚美穂子	プロダクトデザイン
		助手	大城　愛香	イラストレーション
工芸専攻		教授	名護　朝和	染
		教授	真栄城興茂	織
		教授	山田　聡	陶
		教授	水上　修	漆
		准教授	花城美弥子	織
		准教授	久保田寛子	織
		准教授	當眞　茂	漆
		講師	宇良　京子	染
		講師	島袋　克史	陶
		助手	宮城　愛美	染
		助手	小川　恵	漆

音楽学部／（院）音楽芸術研究科

音楽表現専攻	（院）演奏芸術専攻	教授	片桐　仁美	アルト
		教授	五郎部俊朗	テノール
		教授	小杉　裕一	ピアノ
		教授	岡田　光樹	ヴァイオリン
		教授	林　裕	チェロ
		教授	阿部　雅人	ホルン
		教授	近藤　春惠◎	作　曲
		准教授	山内　昌也	テノール
		准教授	松田奈緒美	ソプラノ
		准教授	小沢麻由子	ピアノ
		准教授	澤村　康恵	クラリネット
		准教授	倉橋　健	トランペット
		准教授	屋比久理夏	打楽器
		准教授	土井智恵子◎	作　曲
		助教	飯島　諒	フルート
		助手	永井　友恵 ◎（院）音楽学専攻教員	
音楽文化専攻	（院）音楽学専攻	教授	谷本　裕	アートマネジメント
		教授	小西　潤子	民族音楽学
		教授	高瀬　澄子	日本音楽史
		准教授	呉屋　淳子	文化人類学
		准教授	遠藤　美奈	民族音楽学
		准教授	倉橋　玲子	西洋音楽史
		准教授	向井　大策	西洋音楽史
		講師	神谷　武史	アートマネジメント
琉球芸能専攻	（院）舞台芸術専攻	教授	仲嶺　伸吾	琉球古典音楽
		教授	島袋　功	琉球古典音楽
		教授	山内　昌也	琉球古典音楽
		教授	高嶺　久枝	琉球舞踊
		准教授	比嘉 いずみ	琉球舞踊
		准教授	阿嘉　修	組　踊
		助手	嘉数　幸雅	

全学教育センター

教授	波平　八郎	文学概論
教授	森　達也	博物館学
教授	髙良　則子	英　語
教授	芳澤　拓也	教育原理
准教授	張本　文昭	健康・運動理論実技
准教授	藤田　喜久	自然科学
准教授	麻生　伸一	歴　史
准教授	城間　祥子	教育心理学

附属研究所

教授	久万田　晋□	民族音楽学・民族芸能論
准教授	鈴木　耕太○	琉球文学・文化学
講師	新田　摂子	染織工芸史
教授	波平　八郎*	日本文学・比較文化論
教授	山田　聡*	陶　芸
教授	名護　朝和*	染　織
教授	高瀬　澄子*	日本音楽史
准教授	比嘉いずみ*	琉球舞踊
准教授	麻生　伸一*	歴　史

○造形芸術研究科兼任教員
□活水文化学研究科兼任教員
*兼任教員

芸術文化学研究科

教授	尾形希和子	比較美学・芸術学
准教授	喜屋武盛也	比較美学・芸術学
准教授	土屋　誠一	比較美学・芸術学
教授	小林　純子	芸術批評史
教授	金　恵信	芸術批評史
教授	波平　八郎	民族芸術文化学
教授	森　達也	民族芸術文化学
教授	高瀬　澄子	音楽史
准教授	向井　大策	音楽史
教授	小西　潤子	民族音楽学
教授	久万田　晋	民族芸能論
准教授	呉屋　淳子	文化人類学
教授	波多野　泉	彫刻
教授	平山　英樹	日本画
准教授	香川　亮	日本画
教授	仲嶺　伸吾	琉球古典音楽
教授	高嶺　久枝	琉球舞踊
准教授	比嘉 いずみ	琉球舞踊

教職員数

令和元年5月１日現在　単位（人）

	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	事務職員
現　員	1	34	28	8	3	5	20
小　計						79	20
総合計							99

専攻別教員数

学部等	学科等	専　攻	計
美術工芸学部	美　術	絵画	7
		彫刻	5
		芸術学	5
	デザイン工芸	デザイン	8
		工芸	11
	全学教育		4
	小　計		40
音楽学部	音　楽	音楽表現	17
		音楽文化	7
		琉球芸能	7
	全学教育		4
	小　計		35
附属研究所			3
合　計			78

男女別教員数

部局｜職位	教授 男	教授 女	准教授 男	准教授 女	講師 男	講師 女	助教 男	助教 女	助手 男	助手 女	計 男	計 女
美術工芸学部	16	4	9	2	3	1	2	0	0	3	30	10
音楽学部	8	5	8	9	2	0	0	1	0	2	18	17
附属研究所	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	1
計	25	9	17	11	6	2	2	1	0	5	50	28

教育組織・教育分野・研究領域

Academic Organization / Fields of Education / Areas of Research

美術工芸学部

美術学科

絵画専攻　定員10名		彫刻専攻　定員5名	芸術学専攻　定員6名
油画	日本画	塑造	美学
油画 平面 版画 映像・写真表現 空間表現	平面 模写 絹本	木彫 石彫 金属 テラコッタ ミクストメディア	芸術学 日本美術史 東洋美術史 西洋美術史

デザイン工芸学科

デザイン専攻　定員20名	工芸専攻　定員24名			
生活デザイン 産業デザイン 環境デザイン グラフィックデザイン 映像デザイン エディトリアルデザイン	工芸 二年生後期に各分野に分かれます。			
	染	織	陶芸	漆芸
	紅型（筒・型）、型染、夾纈、捺染	絣織、浮織、綴織、組織、素材	成形、陶土、磁土、焼成 薪窯、ガス窯、電気窯	漆精製、素地、髹漆、加飾、乾漆

専門教育科目（必修・選択）

全学教育科目（リテラシー科目〈日本語、情報、外国語〉、一般教養科目〈人文科学、社会科学、自然科学〉、

音楽学部

音楽学科

音楽表現専攻　定員23名					音楽文化専攻　定員7名		琉球芸能専攻　定員10名	
声楽コース	ピアノコース	弦楽コース	管打楽コース	作曲理論コース	沖縄文化コース	音楽学コース	琉球古典音楽コース	琉球舞踊組踊コース
独唱 重唱 オペラ 合唱	独奏 重奏 伴奏	独奏 室内楽 オーケストラ	独奏 室内楽 オーケストラ	創作 編曲 音楽理論	沖縄を中心とする音楽、舞踊の研究 アートマネジメント	日本音楽史 西洋音楽史 民族音楽学	歌三線 琉球箏曲	琉球舞踊 組踊

専門教育科目（必修・選択）

芸術教養科目、沖縄の文化に関する科目、健康運動科目）、資格課程（教職課程、博物館学課程）

造形芸術研究科

環境造形専攻　定員6名			生活造形専攻　定員9名						比較芸術学専攻　定員3名		
絵画専修		彫刻専修	デザイン専修		工芸専修				比較芸術学専修		
油画 研究室	日本画 研究室	彫刻 研究室	視覚伝達デザイン 研究室	生活環境デザイン 研究室	染 研究室	織 研究室	陶磁器 研究室	漆工 研究室	美学・芸術学 研究室	美術史 研究室	民族芸術 文化学研究室
油画 平面表現 映像・写真表現 版表現 空間表現	日本画	塑造 テラコッタ 木彫 石彫 金属 ミクストメディア	視覚伝達デザイン	生活環境デザイン	染 （型染 紅型）	織 （織研究 織制作）	陶磁器 （陶磁原料研究 陶磁器研究）	漆工 （日本漆芸 琉球漆芸）	比較芸術学 比較美学 日本・東洋・西洋の美学・芸術学	日本・東洋・西洋の美術史学	琉球文学 民族文化学 日本文学 比較文化学 アジア工芸史

関連科目

音楽芸術研究科

舞台芸術専攻　定員4名		演奏芸術専攻　定員8名			音楽学専攻　定員3名	
琉球古典音楽専修	琉球舞踊組踊専修	声楽専修	ピアノ専修	管弦打楽専修	音楽学専修	作曲専修
歌三線 琉球箏曲	琉球舞踊 組踊	独唱 オペラ	独奏 重奏 伴奏	独奏 室内楽 オーケストラ	音楽史 民族音楽学 舞踊芸能論	創作 編曲 楽曲分析

関連科目

芸術文化学研究科　（後期博士課程）

比較芸術学研究領域	民族音楽学研究領域		芸術表現研究領域	
比較美学・芸術学	芸術批評史	民族芸術文化学	音楽史	民族音楽学	民族芸能論	造形芸術	音楽芸術

附属研究所

伝統芸能部門	伝統工芸部門	芸術文化学部門

学年暦

Academic Calendar

4月
- 1日　学年開始及び前学期開始
- 2日　入学式
- 2日〜6日　新入生オリエンテーション（学部・大学院）
- 3日〜14日　前学期授業科目の登録期間
- 7日　前学期授業開始

5月
- 13日〜14日　定期健康診断
- 15日　開学記念日（休業）

6月
- 7日　ぬちぬぐすーじさびらin摩文仁
- 第5回レクイエムコンサート（沖縄平和記念堂）
- 14日　オープンキャンパス（美術工芸学部・音楽学部）
- 23日　慰霊の日（休業）

7月
- 4日　芸術文化学研究科（博士課程）研究発表会（2年次生以上）
- 18日　卒業論文、修士論文中間研究発表会［芸術学、比較芸術学専攻］
- 27日〜31日　前学期期末試験

8月
- 1日〜9/10　夏季休業
- 1日　オープンキャンパス（美術工芸学部・音楽学部）
- 1日〜5日　彫刻学部生展、院生展
- 2日〜3日　サマースクール（声楽コース）
- 2日〜7日　サマースクール（美術工芸学部）

9月
- 5日〜6日　大学院造形芸術研究科入試（9月試験）
- 7日〜28日　教育実習（中学校及び高等学校教育職員免許状取得予定者）
- 11日〜28日　前学期集中講義、自由研究及び補講期間
- 28日〜10/5　後学期授業科目の登録期間
- 30日　前学期終了

10月
- 1日　後学期開始及び後学期授業開始
- 9日　博物館実習ガイダンス
- 10日　第31回琉球芸能定期公演
- 11日　オープンキャンパス（音楽学部）
- 18日　第31回洋楽定期公演
- 24日〜25日　大学院音楽芸術研究科入試
- 31日〜11/1　芸大祭準備期間（休講）

11月
- 2日〜3日　芸大祭（休講）
- 21日〜22日　学校推薦型選抜（美術工芸学部・音楽学部）

12月
- 5日〜6日　博物館実習見学会・報告会・事後指導
- 5日　芸術文化学研究科（博士課程）研究発表会（1年次）
- 16日〜20日　絵画専攻空間表現展内覧会
- 25日〜28日　後学期12月集中講義期間
- 20日〜1/8　冬季休業

2021年 1月
- 12日　後学期後半授業開始
- 16日〜17日　大学入学共通テスト
- 24日　第26回オーケストラ定期演奏会
- 30日〜31日　大学院造形芸術研究科入試（2月試験）
- 30日〜2/3　工芸専攻3年生展
- 30日〜2/6　大学院音楽芸術研究科修士演奏会

2月
- 6日〜11日　彫刻1・2・3年生展、院生1年生展
- 10日〜14日　美術工芸学部・大学院造形芸術研究科卒業・修了展
- 13日　第24回室内楽定期演奏会
- 22日　卒業論文・修士論文発表会（音楽学コース、音楽学専修）
- 25日〜27日　一般選抜（前期日程）
- 28日〜3/1　大学院芸術文化学研究科入試

3月
- 1日〜31日　春季休業
- 4日〜8日　絵画専攻油画2・3年生展
- 5日〜6日　第28回卒業演奏会
- 12日〜14日　一般選抜（美術工芸学部　後期日程）
- 18日　卒業式・修了式
- 20日　オープンキャンパス（美術工芸学部）
- 31日　後学期終了及び学年終了

美術工芸学部

Faculty of Arts and Crafts

美術学科
絵画専攻
彫刻専攻
芸術学専攻

デザイン工芸学科
デザイン専攻
工芸専攻
染分野｜織分野｜陶芸分野｜漆芸分野



美術工芸学部の目的

美術工芸学部は、伝統芸術文化の継承と創造的芸術の表現を専門的かつ横断的に教授研究して、優れた芸術家をはじめとする社会的に活躍できる人材を育成し、もって幅広い芸術文化の発展に貢献することを目的とする。（学則第２条の２）

美術工芸学部の教育方針

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもちろん、造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を見出せる作家や研究者などの専門家の養成をめざします。

高い技術や専門知識、総合的かつ国際的な視野を身につけ、次代を担う個性的で優れた人材を育成します。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、大学ディプロマ・ポリシーを基本に、加えて以下に掲げる学修成果を獲得し、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

1. 美術・デザイン・工芸の分野における基本的な知識を体系的に理解している。
2. 自己の創造的活動を歴史、文化、社会、自然等と関連付けて考察できる。
3. 専攻分野の専門的な技能と研究能力を身につけている。
4. 卒業後も主体的に創作、研究を継続し、それらを社会に発信する意欲と能力を備えている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

1. 専門分野の実技と理論において、必須科目を中心とした体系的な授業科目の編成
2. 専門教育の４年間にわたる段階的履修
3. 自らの学修計画に基づき主体的に履修できる選択科目の編成
4. 大学の学修活動全体を通じて汎用的基礎能力を育成する教育の実施
5. 現代社会における美術・デザイン・工芸の役割を認識し、地域との連携を図り、社会との関係を学ぶ教育の実施

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の学習目標の達成度を基準に、作品・論文・レポート・筆記試験等により行います。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもとより造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を担える作家、研究者、教育者などの専門家を育成するため、専門的素養と総合的知識、国際的視野を身につける教育を行います。

【求める人材】
1. 本学及び学部の教育の理念をよく理解し、大学での学修に必要な基礎的な学力、知識、能力を備えている人
2. 美術・デザイン・工芸の分野の制作や学習に主体性を持って積極的に取り組むことができる人
3. 美術・デザイン・工芸の分野において作家、研究者、教育者などの専門家になる意欲のある人
4. 広い視野を持ち、コミュニケーションを大切に考え、社会との関わりを意識している人
5. 沖縄固有の芸術文化や自然等に関心があり、沖縄で学ぶことに意義を見出せる人

【入学者選抜試験の実施】
1. 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語及び外国語を中心に受験科目を課すとともに、個別学力検査等において、実技試験、小論文、面接を実施しています。なお、絵画及び彫刻専攻は前期及び後期入試を実施しています。
2. 学校推薦型選抜では、絵画・デザイン・工芸各専攻は、課題作品、小論文の提出と面接を、芸術学専攻は小論文の提出と面接を実施しています。

いずれの入試においても、学部及び専攻のアドミッション・ポリシーに基づき実施し、総合点の上位から合格者の選抜を行います。

絵画専攻
Painting Major

絵を描き心の眼を養う
●油画　●日本画



アドミッション・ポリシー

人は生きる指針、共存する証として、どのような時代においても絵を描き続けてきました。高度に情報化し、グローバル化した現代の社会環境においても、自分自身の現実感や存在感を測り、イマジネーションを共有する手段として、普遍的な絵画表現の意義や社会的役割を問うことは、とても重要と考えます。

絵画専攻では、亜熱帯に位置する沖縄の歴史・芸術文化・環境・自然に理解と愛情を持ち、自らの専門性と創作力を高めるために、造形教育の専門性に対して探究心を持って取り組み、他者とのコミュニケーションを積極的に育む人材を求めています。

教員からのメッセージ



高﨑 賀朗

絵画専攻には、油画と日本画の分野があります。専門分野ごとに設けられた各種の実習、演習、講義等を通して、絵画表現について段階的に幅広く学ぶことができます。作品制作を重ねる中で、感性と表現力を磨き、想像力を広げ、個々の主題について創作研究を深めていきます。

多くの芸術家が、沖縄の自然、歴史、文化に刺激を受け、独自の芸術を創出してきました。新たな環境のもとで、価値創造の探究を行いませんか。

専任教員 | 日本画・油画

平山 英樹 教　授（日本画）
知花　均 教　授（油画・凹版）
髙﨑 賀朗 教　授（油画・孔版）
香川　亮 准教授（日本画・凸版）
阪田 清子 准教授（油画・ミクストメディア）
関谷　理 講　師（日本画）
金城　徹 助　教（油画）

カリキュラム・ポリシー

存在価値の多様化や均質化するグローバル情報社会にあって独創的な画家や造形作家、教育者に求められる基本的な実技能力（観察、描写、素材応用、プレゼン）を深める教育を行います。多様な絵画・造形表現の理解と課題制作による学修から美的価値観を涵養する中で個性を伸ばし、展示や講評、学外活動などを通じ他者理解と社会性を育みながら、学生の独自性を尊重した教育を目指します。個性的な表現活動を支える身体的技術力と思考力、教養と専門性の深度を総合的に養い、卒業後も創作活動を継続し美術の社会的役割に反映しうるよう自ら課題を創出し、独創的な表現を探求する能力を育成します。








［左上から］
卒業・修了作品展　ディスカッション／卒業・修了作品展　展示風景
日本画 模写実習／日本画制作風景／凹版実習／油画制作風景

油画、日本画の授業概要

油画分野では素描、ドローイング、油彩、素材応用表現をカリキュラムの土台とし、版表現、映像表現、インスタレーションやパフォーマンス等の実習を通して現代に対応する感性、表現力を養います。2、3年次の進級展を通して自己が創出する表現テーマを探求し、段階的に卒業制作へ向かいます。

日本画分野では素描と伝統的な材料技法の基本を理解する事から始め、実習を通して模写、絹本、箔、裏打ち等を習得し、課題制作として人物、風景、自由制作などで修練を重ね、現代に置ける表現研究の下に自己のテーマに基づいた卒業制作に向かいます。

両分野の共通の授業としては、学外演習（離島フィールドワーク）や古美術研究（京都、奈良を主とした研修旅行）、写真（アナログ）や版画（凹凸平孔）実習、特論Ⅰ、Ⅱ授業として美術作家、キュレーター、評論家による集中講義があります。

絵画専攻の必修科目

●絵画基礎　●日本画Ⅰ　●箔　●日本画Ⅱ-Ⅰ　●日本画Ⅱ-Ⅱ
●日本画Ⅲ-Ⅰ　●日本画Ⅲ-Ⅱ　●装丁実習　●日本画Ⅳ
●油画Ⅰ　●油画Ⅱ-Ⅰ　●油画Ⅱ-Ⅱ　●油画Ⅲ-Ⅰ
●油画Ⅲ-Ⅱ　●染　●油画Ⅳ　●絵画特論Ⅰ　●絵画特論Ⅱ
●古美術研究旅行　●彫刻（絵）　●デザイン（絵）　●工芸（絵）

坂元 蘭（さかもと　らん）



（奄美大島出身）
2018年3月
絵画専攻油画卒業
2020年3月
造形芸術研究科環境芸術専攻
絵画専修油画研究室　修了

芸術をする上で私が常に持っているテーマを、大学に入るまでは平面でしか表現できませんでしたが、入学して様々な形態や素材で表現できる術を得ることができました。

在学中は他大学には無い専門的な授業や、全専攻の基礎が学べる魅力もあり、学部の頃は夜通し美術について語り合う日々もありました。美術を考えると生命感、社会、歴史、哲学が自然と湧いてき、相手と自分の“共通感覚”を深く探る事、他人を知る能力が身につき、卒業後も美術を続ける手段を見つけることも出来ました。

自分に無いものあるものを見つけ、どの要素も武器にして生きることができると思いました。自由に表現、発言、行動ができる。その中で何が良し悪しだったかを考える能力も身につき、社会も知ることができました。そんな絵画専攻だからこそ他専攻の良さが理解できるんだなと改めて実感しています。

他府県とは少し変わった独特の生活や歴史を近くに感じながら、生命に溢れた環境での芸術を学べる、いくつもの感性が成長していく楽しさを感じられました。

彫刻専攻
Sculpture Major

今だからこそ、
自分の手でつくる力を。



アドミッション・ポリシー

彫刻専攻では、将来、彫刻を中心に造形芸術の様々な分野で活躍し社会に貢献できる作家、教育者などの専門家になれる人材の育成を目指します。そのために、学部アドミッションポリシーを基本に、基礎的な観察力、造形力、立体表現能力を備え、自己を深く見つめ自然や社会との関係を思索し、何よりも造形行為と自己の将来を肯定的に重ね合わせることのできる人を求めています。

教員からのメッセージ


砂川 泰彦

彫刻は人体や動物などの古典彫刻からはじまり、現代では作品制作の動機が個人的なものや社会性を含むものまで、多様な要素から生まれる彫刻表現が広がっています。

沖縄で東西の古典を礎に、彫刻の制作を通して自らを深く見つめ、皆さんが本来持っている創造性を磨いてみませんか。いろんな輝きを見つけることができると思っています。

専任教員 | 彫刻

波多野 泉 教授（塑造・木彫・乾漆他）
河原 圭佑 講師（金属他）
早川 信志 助教（テラコッタ他）
砂川 泰彦 教授（石彫他）
長尾 恵那 講師（木彫他）

カリキュラム・ポリシー

将来、専門家として創作活動を行うのに必要な基礎学修の中で、個性の伸長を期して主体性・独創性を重視した教育を行います。また、学内外での実践的、体験的プログラムにおいて、学生の社会性と協働精神の育成を図ります。

彫刻専攻の教育課程は、導入から専門教育まで単に造形技法の修練のみにとどまらず、将来にわたって自ら主体的にテーマを見出し、独創的な表現の探究を続けて行くための基礎的な能力育成を目的としており、学部カリキュラム・ポリシーを基本に、教養・専門、実技・理論教育を一体的、総合的に捉えています。学修成果は、学習目標の達成度を基準に、課題等の成果物とそれに至る試行、造形思考の深さ、説得性などによって総合的に評価します。



［左上から］
酒井貴彬「伸びる鉄、縮む間」／小泉ゆりか「炎下流魂」／村松優実花「継ぐ環」
石彫実習／テラコッタ実習／金属実習／木彫実習

教育課程の概要

彫刻専攻では、学生個々の創造能力育成に主眼を置き、１年次から３年次前学期を通して塑造、石彫、木彫、金属、鋳造、テラコッタ等の基本的な技法と理論を修得します。また、古典から近現代にいたる彫刻とその周辺の歴史を学びつつ、３年次後学期から自己のテーマに基づいて、より実践的な展示発表を前提とした制作を行い、４年次では、前・後学期ごとに明確な計画を立てて制作し卒業作品とします。

卒業生の８割以上は大学院へ進学しています。

教育環境

彫刻専攻の教室・アトリエは、１年次から大学院まで、学年を越えた共通の学習・制作の現場となっており、下級生は上級生との交流の中で多くを学ぶ環境にあります。

また、大学と社会との関わりを実践的に学ぶため、市町村との共催による学外での演習、展覧会、シンポジウム等を行い、さらに広く国際的な視野を培うため、海外の芸術大学や卒業生の留学先等との国際交流を積極的に進めるなど、活気に満ちた教育環境づくりに専攻を挙げて取り組んでいます。

彫刻専攻の必修科目

●彫刻Ⅰ～Ⅳ　●古美術研究　●構成　●絵画（彫）　●工芸（彫）
●彫刻特論Ⅰ・Ⅱ　●デッサン　●鍛造・鋳造　●デザイン（彫）
●美術解剖学Ⅰ（骨）　●彫刻史

福田 直樹（ふくだ　なおき）



（栃木県出身）
2016年
京都造形芸術大学美術工芸学科
総合造形コース 卒業
現在
沖縄県立芸術大学造形芸術研究科
環境造形専攻彫刻専修 修了

京都から沖縄に来て二年が経ち、現在まで充実した制作活動を送っています。沖縄に来た当初は、制作で扱う素材の流通の違いや、私が扱うミクストメディアに対するアトリエの制約などに不自由さを感じることもありましたが、こんな作業がしたい、このような環境にしたいといった積極的な姿勢に対して、この大学は肯定的で、制作環境を提供してもらえるとても貴重な場でもありました。全部が揃った完璧な場であったら、気づけなかった発見や得られなかった知恵が多くあったと感じます。

自分からアクティブに行動する人であれば、沖縄の環境は学びの糧になるはずです。自分の研究に臆することなく、思い付いた制作に大胆に素直に取り組むことができるのは、この大学の大きな魅力であると思います。

芸術学専攻
Art Studies Major

芸術や美とは何かを追求し、
批評精神を養う。



アドミッション・ポリシー

芸術学専攻は沖縄県の特色ある文化と歴史を尊重し、日本にのみとどまらず国際的な教養を備え、芸術の様々な領域で活躍できる人材の育成を目指します。

この目的のため、本専攻では以下の人材を求めます。

1. 多様な芸術作品や芸術に関する現象に興味を持ち、それらについての知見や情報を進んで収集する意欲を持つ人。
2. 芸術についての知識や思想を「言葉」によって表現し、他者と知的なコミュニケーションを交わすことに関心がある人。
3. 現代社会における芸術のあり方を考え、その未来を展望することを目指す人。
4. 芸術作品を積極的に鑑賞し、また制作や芸術運動への参加を通じて、具体的な経験に即した思考を行える人。

教員からのメッセージ



金 惠信（きむへしん）

考えながら感じる芸術

芸術学専攻は、「沖縄で芸術を学び、世界を眺める」学びと実践の場です。ここには、芸術表現そのものを経験する実技、芸術作品の歴史、哲学、理論を考察する美術史、美学、芸術学の授業、成果を見せる展示企画と研究発表の場が用意されています。大きな窓から首里城が見える芸術学専攻専用の自習室で沖縄の芸術文化の風と空気を感じながら、古代から現代までの東西の芸術を学び、人生の次なるステージへの設計をしてみませんか。

専任教員	芸術学
尾形 希和子	教　授（西洋美術史）
小林　純子	教　授（日本美術史）
金　惠信	教　授（東洋美術史）
喜屋武 盛也	准教授（美学）
土屋　誠一	准教授（芸術学）

カリキュラム・ポリシー

芸術学専攻では、芸術に関する論文を書くことの出来る学問的な力を備えた学生の育成を主要な目的としています。研究の対象となる分野は、沖縄の文化芸術のみならず美学・芸術学・日本美術史・東洋美術史・西洋美術史と幅広く設定され、学生の個性に応じて、自分に相応しい学問領域を選択できるようになっています。

また、芸術大学の学生にふさわしい実技と理論の調和を目指すことも大切な目的の一つです。語学の選択範囲も広く、英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・ラテン語・漢文などの他に、日本語の歴史的文書を読むための授業科目を受講できます。

１年次においては実技と理論の学習が半々になるようにカリキュラムが構成されていますが、２年次以降では、理論と歴史や語学などの学習が中心となります。２年次における「学外研究」で多くの芸術作品に触れ、芸術と社会とのかかわりを考える機会を得ることによって、自分の目指す分野が明確になっていきます。３年次で専門分野の研究を深め、４年次の「卒業論文」において、学生はそれまで大学で学んだ知識と陶冶された感性を有効に用いて一つの研究課題の下に論文を執筆することになります。

さらに、就学中に博物館学課程や教職課程の科目を受講することで、学芸員資格や教員免許状を取得することができるように配慮されています。






［左上から］
授業風景／実技研究
学外演習／学外研究

教育課程の概要



芸術学専攻の必修科目

●実技研究　●基礎演習　●学外研究　●卒業論文
（他選択必須科目あり）

權 嬉原（グォン　ヒウォン）

（韓国大邱出身）
2020年3月　芸術学専攻卒業



私は、高校生のころから美術館へ行くことが趣味で、美術館という空間が好きでした。そして、学芸員という職業に目が移り芸術学専攻に入る契機となりました。作品を用いて、新しい意味を生み出すという創作活動に強く魅力を感じ、入学後は、学芸員資格のカリキュラムを履修し、自分が望んでいた勉強ができたのは在学中得られた成果です。

芸術学は芸大でも特殊な専門とみなされることが多いです。人に「芸術学です」と言うと、高い確率で「何を描いている？」という質問が戻ってきます。私は沖縄居住、韓国人、留学生などの、特殊なアイデンティティで大学４年を過ごしました。私にとって最も大きな学びは、自分に真正面から向き合い、新しい世界に一歩踏みだす過程で、自分が感じることを言語化する能力を得たことです。そして、それに共感し、意見が混じり合う場を作るのは、芸術学でしかできない素敵な経験かもしれません。芸術学専攻に進学を考える人にも、このような経験を味わってほしいです。

デザイン専攻
Design Major

南の島でデザインを学ぼう



アドミッションポリシー

デザイン専攻は、日本最南に位置する沖縄県の特色ある文化を、誇りを持って受け継ぎ、伝統や工芸の基礎的研究を基に、地域の経済・産業や文化活動との連携を図りながら、今日的デザインの課題を理解し、未来的思考に立つ高度な情報技術と、国際的な視野を持つ人材の育成を目的とします。

以上の目的に賛同し、主体的な学習能力を養い、専門分野に偏らない健全な社会人となれるような人物を求めています。

教員からのメッセージ

笹原 浩造

美しい海洋環境と沖縄独自の造形文化の地で、入学後に学生其々が芸術大学でのデザイン基礎を学び、各々の希望や進路を目指して、グラフィック、プロダクト、スペース、メディアなど多様なニーズに呼応した制作展開できるよう選択課題を用意しています。

これからの社会や生活に向かって、自分を生かした制作や役割づくりを目指しましょう。

また３年前から県外にも推薦入試を行なっています。

専任教員	デザイン
仲本　賢	教　授（映像デザイン）
赤嶺　雅	教　授（グラフィックデザイン）
笹原　浩造	准教授（グラフィックデザイン）
高田　浩樹	准教授（プロダクトデザイン）
宮里　武志	准教授（環境デザイン）
又吉　浩	准教授（メディアデザイン）
赤塚 美穂子	講　師（プロダクトデザイン）
大城　愛香	助　手（イラストレーション）

カリキュラム・ポリシー

デザイン専攻では、専門領域の垣根を取り払い、様々なデザイン分野の中から学生が主体的に授業を選択できるようにカリキュラムを編成しています。
本専攻のカリキュラムの編成に関しては以下の６点に集約できます。

1　伝統工芸の基礎的研究、地場産業や地域の文化に強く根ざしたデザインを育てる。
2　情報化社会への融合とそのための取り組みを行う。
3　国際的視野に立った専攻カリキュラム編成を行う。
4　時代に合った地域社会、経済との連携と就職に結びつくカリキュラム編成を行う。
5　主体的な向上心を育成するために、多くのデザイン科目を自ら選択できる。
6　社会人としての人格形成、社会性のある人物を育てる。

また、各学年で学ぶ主なこととして、１年次では、デザインの基礎を学び、デザインを学ぶ者としての自覚を促し、２年次では、デザイン機器と素材の研究と並行して、グループ研究を行います。３年次では、公共物のデザイン等を通して、デザイナーとしての社会的役割を確認し、４年次では、個別の卒業制作を通じて、市場の調査方法、社会から支援を得る方法、企画の的確な提示方法等を学び、デザイナーとしての資質を完成させます。
デザイン専攻は、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

教育課程の概要

デザイン専攻は、１年次に造形基礎を通じて描写力・構成力を養い、２・３年次では分野的領域を選択制度により、専門的な実習・演習・講義を行います。さらに、３年次のインターンシップ（企業実習制度）は産業の結びつきを意識し、実社会との接点の有効性を期待しています。４年次では、各学生が独自のテーマを設定し、卒業制作を行います。



■生活デザイン
生活道具としての器具・機器の開発や改良に関する造形的学習をします。



■産業デザイン
情報、生産、流通などを通して、製品計画について学習します。



■環境デザイン
公共空間における様々な生活装飾や空間の造形的学習をします。



■グラフィックデザイン
広告やサイン計画を通して、レイアウト、イラストレーション、レタリング等の学習をします。



■メディアデザイン
アニメーション、絵本、キャラクター、Web などの様々なメディアを通して表現方法を学習します。



■映像デザイン
写真、ビデオ、ＣＧを中心に、映像表現を学習します。

デザイン専攻の必修科目

- デザインⅠ
- デザインⅡ－Ⅰ
- デザインⅡ－Ⅱ
- デザインⅢ－Ⅰ
- デザインⅢ－Ⅱ
- デザインⅣ－Ⅰ
- デザインⅣ－Ⅱ
- 学外研究
- デザイン特別演習

勝森 彩香（かつもり あやか）



（大阪府）
デザイナー

2015年　大阪市立工芸高等学校ビジュアルデザイン科　卒業
2015年　沖縄県立芸術大学デザイン専攻　入学
2017年　「第５回がん征圧ポスターコンテスト」最優秀賞
2017年　「JAGDA学生グランプリ2017」優秀賞
2017年　「無印良品2018正月広告コンペ」採用
2018年　「ICS Design Award 2018」優秀賞
2019年　沖縄県立芸術大学デザイン専攻　卒業
2019年　株式会社電通テック　入社

本学へ進学するまでは大阪で育ち、高校生の時はビジュアルデザインを学んでいました。大学を選ぶときになって、4年間まったく知らない土地に住んでみるのもいいのかもしれないと思い、本学への進学を決めました。大学ではビジュアルデザイン以外にもプロダクトデザインや空間デザインなど幅広く単位を選択して色々なものを制作していました。3年の時くらいから広告のデザインがしたいと思い、より幅広い広告をやるために東京の広告制作会社に就職して、現在は日々勉強しながら新人デザイナーです。
学生の数が少ない本学は、教授との距離も近く、たくさんある工房が自由に使うことができるので、授業がなくても大学に行って制作し放題でした。そして、デザインの各分野を自由に行き来できる環境はやりたいと思ったことをすぐに実行でき、自分の視野を狭めることなく可能性を無限に広げられる空間だと思います。

工芸専攻
Crafts Major

感性を磨き、
新しい伝統を創造する。



アドミッション・ポリシー

・沖縄固有の文化、また広く地域の芸術文化に関心があり、将来工芸作家、教育者、研究者等専門家として活躍できる人。
・工芸技術の習得及び研究に興味があり、意欲的に作品制作に取り組み、感性を磨き、他とのコミュニケーションを密にして、自ら積極的に学び、自己形成に努力できる人。
・芸術文化、とりわけ伝統工芸、伝統文化の継承、発展に関心があり、グローバルな視点で沖縄の工芸文化研究に意欲のある人。

教員からのメッセージ


山田　聡

皆さんは、芸術大学の工芸専攻ではどのようなを事を学べて、学生たちが何を作っているか興味を持ったことがありますか？
「工芸」は土、漆、染料、糸、布、ガラス、金属など地球上に在る様々な素材を駆使して、生活空間の様々な場面を色取るものを創り出す分野で、人間の営みと共に「工芸」の歴史は築かれてきました。
大学では、「工芸」の素材を活かす制作技法を学ぶことはもちろんのこと、素材と向き合いながら、自身と対話し、自分を探求することが出来る場所です。その事を念頭に教員も日々学生の指導を行っています。
「工芸」では YouTube でも味わえないリアルな出会いがまだまだあります。次世代を生きて行き、100 年後の未来を作って行くであろう皆さんとの出会いを、教員一同楽しみに待っています。

専任教員｜染・織・陶芸・漆芸

[染分野]	[織分野]	[陶芸分野]	[漆芸分野]
名護　朝和 教授	真栄城　興茂 教　授	山田　聡 教授	水上　修 教　授
宇良　京子 講師	花城　美弥子 准教授	島袋 克史 講師	當眞　茂 准教授
宮城　愛美 助手	久保田　寛子 准教授		小川　恵 助　手

染分野



カリキュラム・ポリシー

染分野では、紅型に代表される型表現を基礎とした様々な染色技法を習熟することによって現代社会に発信・展開する力を身につける教育を主眼としています。紙漉・琉球藍研究等を通して素材の知識を深め、型紙研究、着物制作において造形力を高めるカリキュラムです。
技術力に裏打ちされた創造性豊かな染色表現ができる人材育成を目指しています。

織分野



カリキュラム・ポリシー

織分野では、絣や浮織技法を用いた織制作をはじめ、沖縄特有の植物繊維の糸作りなど天然素材研究を行います。多様な専門技術や表現方法を学び造形表現への展開を図り、個性のある創作へと応用、展開を行います。
そして、織を通して沖縄の自然や文化、社会との関わりを模索し、自己の将来を明確に展望できる人材の育成を目指しています。

陶芸分野



カリキュラム・ポリシー

陶芸分野では、素材、思考、技術の３つのファクターの相互関係や連動性をカリキュラムの根幹として考えています。陶という可能性を秘めた素材を知覚することによって創造するという欲求が生まれ、それと連動するように思考が始まり、その思考を具現化させるために技術や造形力が必要となります。学部ではこの３つのファクターの相互関係や連動性の理解を促し、様々なカリキュラムを通して陶でできる多角的な表現力・造形力を養い、それを社会に対し発信できる人材の育成を目指しています。

漆芸分野



カリキュラム・ポリシー

漆芸分野では、琉球漆芸の技法や表現を吸収するとともに、幅広く日本漆芸全体を学ぶことを基礎とした上で各自の個性を伸ばす教育を目標としています。独自のカリキュラムを通して、創作活動を実践していく専門性を習得することと同時に就職などの多様な進路にも対応し、現代社会に貢献できる「人間力」を身につけることも目指しています。創造の柱となる「素材・技術・表現」を３要素として「歴史・科学・社会」とリンクしながら総合的なバランスの良い教育を展開していきます。

教育課程の概要

１年次から２年次前期まで美術全般を幅広く学ぶことで工芸専攻の基礎力を養うと同時に工芸専攻の４分野(染・織・陶芸・漆芸)の実習を通し、工芸制作の基礎を学びます。
２年次後期からは４分野に分かれ、専門的に素材の知識、技法や表現を３年次まで学び、学部の集大成として４年次の卒業制作へと進みます。

工芸専攻の必修科目

●描写	●工芸Ⅰ	●織Ⅰ	●陶芸Ⅰ	●漆芸Ⅰ
●色彩	●工芸Ⅱ	●織Ⅱ	●陶芸Ⅱ	●漆芸Ⅱ
●立体構成	●染Ⅰ	●織Ⅲ	●陶芸Ⅲ	●漆芸Ⅲ
●立体造形(工)	●染Ⅱ	●繊維科学	●窯業化学	●漆芸科学
●版画	●染Ⅲ	●染色化学	●陶芸特別演習	●漆芸特別演習
●デザインと素材	●染織特別演習			
●絵画(工)				
●彫刻(工)				
●デザイン(工)				
●古美術研究				

染分野教育環境

染分野には、着物制作専用の引染工房があり、３年次の課題で全員が着物を染めます。また、タペストリーやパネル等の大きな作品を染める工房もあります。共同の施設として、講義室、染場、外部作業場、コンピュータ室等もあり、充実した制作環境が整っています。


引染工房





［左上から］
2年生「古典紅型（型）」／2年生「染基礎２」／4年生「卒業制作」
坂本 希和子「弥榮」／桝谷 甫「春野辺文着物」

坂本 希和子
（さかもと　きわこ）



（高知県出身）
2019年10月現在
工芸専修　染研究室2年生
2020年4月
知念紅型研究所　就職

幼い頃から母の故郷沖縄に訪れる中で、色彩の力強さに惹かれていました。将来を考えた時、沖縄の色を表すような紅型の作り手になりたいと思い、本学への進学を決めました。

工芸専攻では初めに染・織・陶・漆の4分野を経験した後に希望分野に進みます。
染分野では古典紅型の模写からはじまり、和紙染めや絞り、捺染といった様々な染色技法について理論と実技の両方を学びました。

大学院に進学し、紅型における筒描きと型染めを併用した表現について研究制作をしてきました。思うように出来ず悩むこともありましたが、それでも楽しく制作に向き合えたのは、整った設備と頼れる先生方、切磋琢磨し尊敬できる友人がいたからだと思います。

４月から紅型工房に就職することが決まり、更に紅型について知識を深め貢献していけたらと思います。

織分野教育環境

織分野では、一人一台織機完備の織工房をはじめ、糸染めや染色実験を行う染場や外部作業場、撚糸機を備えた織機械室、意匠設計を行うコンピュータ室、素材研究に必要な芭蕉畑等、制作・研究環境の充実を図っています。


織工房


織分野ファッションショー



［左上から］
新井田 桜子「きらめき ときめき さざめき」
後藤 麻友「灯、積もりて」／杉本 智奈「寂として祷る」

福本 理沙
（ふくもと りさ）



（徳島県出身）
2019年10月現在
工芸専修　織研究室2年生
2020年4月
まゆ織工房　就職

幼い頃から芸術が好きで、中学生の頃からは工芸という分野に特に興味を持っていました。将来は作り手になりたいと思い、染織分野の実技指導がある国公立の芸術大学への進学を希望していました。いくつかの選択肢の中、色彩豊かな自然にあふれ、様々な分野の工芸が機械化されずに人の手で紡がれている、沖縄という土地に惹かれ本学への進学を決めました。

県外出身の私の目線から見たこの土地は、地元では目にしない亜熱帯地域特有の強烈な色合いの植物や魚、刺さるような日差し、独特の風習や方言など、ものづくりのヒントになるもので溢れており、とても恵まれた環境であると感じました。

本学の織分野では、沖縄の伝統技法はもちろん、自主的にやりたい技法があれば、豊富な知識と経験をもつ先生方が様々な角度からアプローチして指導してくださいます。私の場合、出身地・徳島のしじら織と沖縄の絣を組み合わせた作品づくりを学部生から院生へと継続して行っています。また、実技指導だけではなく、染織を理論的に分解して理解する講義があり、ファイバーアートや工業的な織物についても知ることができます。

工芸、織を通して得た知識や経験、ものの見方は、大学卒業後の進路選択や、人生のあらゆる機会に活かされていくと思います。

漆芸分野教育環境

漆芸分野では、実習室に様々な道具や材料を機能的に収納できる個人用作業机を置き、デザインワークや下地作業を行います。加飾室や塗部屋、大型作品の制作スペースとしての造形室や木工室の施設、電機回転ぶろ、乾漆用電気炉、堆錦用電動ローラー、回転研磨機、漆精製用ふね他、多くの機器を備えています。


漆芸実習室



［左上から］
螺鈿／漆精製／蒔絵／乾漆
沈金／密陀絵／箔絵／堆錦／卒業制作

寺嶋 志乃
（てらしま　しの）



（京都府出身）
2019年10月現在
漆芸コース4年生
2016年4月
美術工芸学部　工芸専攻入学
2019年10月
あいづまちなかアートプロジェクト作品出品
2019年11月
沖縄県工芸公募展作品出品　新人賞受賞
2020年3月
工芸専攻　漆芸分野卒業
2020年4月
香川県漆芸研究所　入所

私は高校の時に漆に出会って、大学でもっと漆芸を学びたいと思い工芸に進学をしようと決めました。大学で学ぶ漆芸は沖縄ということもあって、高校で学んできたものとは違い、ほぼ一からのスタートでした。大学では道具作りから始まり、なかなか体験する機会のない漆精製、また沖縄の螺鈿、沈金、蜜陀絵、箔絵、堆錦、どれも新鮮で楽しかったです。もっと色々な技法や作品に出会いたいと思います。卒業後は香川県漆芸研究所で勉強を更に続け、香川の漆芸技法も学び表現の幅を広げて行きたいと考えています。これからも漆を楽しむ気持ちを忘れずに制作を続けて行きます。

陶芸分野教育環境

陶芸分野では、一人に一台ずつ電動轆轤が与えられます。そして様々な焼成実習が行えるように登り窯・ガス窯・電気窯を設置し、また釉薬などの科学的な実験や研究も行えるように釉薬調合室や実験機器の設備の充実を図っています。


焼成室



［左上から］
3年生「上絵実習」／3年生「登り窯実習」
田鹿未莉「現実逃避行記」／宮本実来「特別じゃない日をちょっと特別に」

宮崎 輝子
（みやざき　てるこ）



（京都府出身）
富山ガラス造形研究所　入所

陶器というと身の回りにあり、当たり前に使っています。それをいざつくるとなると初心者の私は湯呑一つとっても、多くの作業をクリアしなければいけませんでした。陶芸分野は多様な技法演習があります。それらを通して、先生方から丁寧な仕事の仕方を教わり、繰り返し練習をして一つずつ着実にできるようになりました。

また、先輩や同期、後輩の制作を近くで見ることができるので、そこから自分の視野も広げることができます。

こういった基礎的なことを踏まえた自由制作では突拍子もないアイデアを先生方の助言をもらい実現しようと思考錯誤を重ねました。完成した時は充実した手ごたえを感じました。

この貴重な出会いと経験と、物を作る楽しさを糧に今後の制作に励みたいと思います。











授賞式

第31回 卒業・修了作品展 修士論文・卒業論文発表会

学生の研究成果の集大成として沖縄県立博物館・美術館において卒業・修了作品展、本学大講義室において修士論文・卒業論文発表会が開催されました。音楽学部琉球芸能専攻の学生による奏楽「かじゃでぃ風」で展覧会が華やかに幕を開け、オープニングイベントでは展示及び発表された作品、論文に贈られる各賞の授与式を行いました。また会期中は作品講評会や高校生作品鑑賞会、音楽学部音楽表現専攻の学生による独唱とアンサンブル、パーカッションとアンサンブルのミニコンサートを開催しました。

沖縄県の芸術文化を担う機関の連携によって、成果をより広範に発信すると同時に社会に還元し、発信者と受け手のより良い出会いの場を創出することを目指しています。

各賞受賞者

■北中城村長賞
大学院造形芸術研究科環境造形専攻彫刻専修
福田直樹　「境界と記憶」

■北中城文化協会賞
美術工芸学部美術学科工芸専攻織分野
杉本智奈　「寂として祷る」

■沖縄美ら島財団理事長賞
大学院造形芸術研究科生活造形専攻工芸専修　漆工研究室
島袋香子　「青漣」

■沖縄県立博物館・美術館長賞
美術工芸学部美術学科芸術学専攻
工藤源也　「フセイン・チャラヤンの思索的ファッションデザイン」

■デパートリウボウ賞
大学院造形芸術研究科生活造形専攻工芸専修　陶磁器研究室
鈴木まこと　「Clay Language」

美術工芸学部の地域貢献

絵画専攻
共用空間でのホスピタリティー事業

–なは市立病院100点の絵画作品展–
期間：2012年9月～現在
場所：那覇市立病院

概要：絵画専攻では公立病院内に絵画・版画・写真などの、学生と教員の作品を展示するプロジェクトを行なっています。病院という医療公共空間において芸術作品によるホスピタリティー（思いやり、心からのもてなし）空間創出の効果を高め、確かめる共同研究の一環として行なっています。



デザイン専攻
中城村の特産品開発

期間：2018年12月1日～2019年3月10日
場所：中城村
支援団体：中城村役場

概要：デザイン専攻では、２年生の共同研究の授業で市町村を対象に特産品の開発を行っています。この授業は地域の活性化と、学生と社会との繋がりを目的にしており、平成15年度より継続して行っている授業です。また、地域貢献を含め、社会に対するデザインの役割を考える授業でもあります。今まで行った市町村は、初年度の宜野座村を皮切りに、昨年は八重瀬町に対し提案を行いました。初回から数えると15市町村と１施設で実施したことになります。今回の中城村は、村内に琉球王朝時代の史跡や物語が数多く、また自然が豊かで、学生たちは農作物では県内一の生産量を誇る島ニンジンにも脚光を当てました。企画の最後には中城村「吉の浦会館」にて３月２日(土)から６日(水)までプレゼンテーションと展示を行いました。



比較芸術学専攻　アート・レクチャー
芸術学専攻　特別講座

期間：2019年10月11日、18日、25日
場所：沖縄県立芸術大学　首里当蔵キャンパス
概要：第1回　金 惠 信　「王朝の家－ソウル古宮物語－」
　　第2回　鈴木耕太　「『組踊』に対する問い」
　　第3回　小林純子　「琉球絵画の近代」

「芸術学」という魅力ある学問をひろく一般的に皆様に知って頂くため、新たに名称を「教養講座」から「アート・レクチャー」へと変え、毎年開講します。講座は、比較芸術学専攻の教員が幅広いジャンルから講座を提供し、好評を博しています。

また、県内外からゲストをお呼びし、特別講座を開催しています。昨年度は、12月20日に桑島秀樹先生（広島大学大学院総合科学研究科・教授）をお招きして、「〈辺境〉島国のかたち－アイルランド美学を参照軸として－」を開催いたしました。



工芸専攻
「沖縄の工芸 人間国宝と現代作家たち」展

期間：2019年9月13日～11月11日
主催・会場：石川県輪島漆芸美術館
後援：石川県・輪島市

概要：本学工芸専攻の染・織・陶芸・漆芸の教員13名の作品と附属図書・芸術資料館所蔵の11作品の計24点による展示です。

石川県輪島漆芸美術館の四柳嘉章館長は2012年の漆芸分野新設に伴い、琉球漆器の調査を続けてこられた関係から「漆芸科学」の授業をご担当いただきました。また本県の浦添市美術館と友好提携を結んでいることもあり、この様なご縁から連携事業として、この企画展が本学との共催の形で開催されることとなりました。

沖縄ならではの独自の技法や多様な素材が魅力となった作品は、多くの来場者に好評を博しました。



音楽学部
Faculty of Music

音楽表現専攻
声楽コース
ピアノコース
弦楽コース
管打楽コース
作曲理論コース

音楽文化専攻
沖縄文化コース
音楽学コース

琉球芸能専攻
琉球古典音楽コース
琉球舞踊組踊コース



音楽学部の目的

音楽学部は、音楽・芸能に関する専門的技能及び諸理論を教授研究して、音楽・芸能の分野における知識、技術、表現力及び他者との協働により社会に対して汎用化できる能力を備えた人材を育成し、もって幅広い芸術文化の発展に貢献することを目的とする。（学則第２条の３）

音楽学部の教育方針

沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄の地で育まれた個性の美である伝統芸能はもとより、西洋・東洋にわたる芸術音楽を体系的に研究教授し、将来、実演家、教育者、研究者をはじめとして、音楽芸術分野において社会に貢献できる人材の育成をめざします。

豊かな表現力と高い技術力、そして理論的思考力を涵養し、それらを総合して現代社会に新たな価値をもたらすことのできる人材を育成します。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下に掲げる学修成果を修め、最終学年における卒業演奏又は卒業作品、卒業論文、卒業研究の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

1. 音楽・芸能の各分野における専門的な知識と実演、創作等の技能を修得していること。
2. 大学の学修で養った汎用的基礎能力を活かし、主体的に研究を継続し、それらを社会に発信できる能力を備えていること。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽学部では、沖縄の地で育まれた伝統芸能とともに、世界の芸術音楽を体系的に教授し、将来、実演家・教育者・研究者ならびに広く音楽芸術分野に貢献できる人材の育成をめざします。

上記の人材を育成することを目標として、大学カリキュラム・ポリシーを基本に次のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

1. 少人数による教育
2. 専門教育の４年間にわたる段階的履修
3. 専門分野の実技と理論における体系的・横断的な授業科目の編成
4. 全学教育科目における芸術諸分野及び教養に関する教育
5. 地域社会との連携を図り社会との関係を学ぶ科目の提供
6. 学生の多様な関心に対応し学習できる選択科目の設定

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で学習目標の達成度を基準に、演奏・演舞・作品・実践・レポート・筆記試験等により行います。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

大学及び学部の教育理念に基づき、音楽学部では、専門分野における基礎的な知識・技術に加え、大学の学修に必要な基礎的学力と広い視野を備え、将来、伝統芸術の継承発展と新たな芸術創造に寄与できる人材を求めています。

【求める人材】
1. 大学での学修に対する熱意をもち、音楽家、実演家、研究者又は教育者として活躍したい人
2. 基礎的知識を基に音楽に対する視野を広げ、現代社会との関わりを意識している人
3. 沖縄に関心があり、現代社会に向けて芸術創造の営みを発信する意欲のある人

【選抜試験の実施】
1. 一般選抜では、大学入学共通テストで国語及び外国語を中心に受験科目を課すとともに、個別学力検査等では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、副科ピアノ等）を実施しています。
2. 学校推薦型選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、副科ピアノ等）、および面接を課しています。
3. 社会人選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）を課しています。

いずれの入試においても、学部及び専攻・コースのアドミッション・ポリシーを基に実施し、総合点に基づき合格者の選抜を行います。

音楽表現専攻

Performance and Composition Major

感性を磨き、自由に
音楽を表現しよう。

●声楽コース　●ピアノコース
●弦楽コース　●管打楽コース　●作曲理論コース



音楽表現専攻は声楽・ピアノ・弦楽・管打楽および作曲理論の洋楽実技系コースからなり、垣根を超えた教育研究を行っています。各コースでは、個人レッスンを中心に、演奏や作曲の技能を修得する過程で各分野の専門的能力を養います。また共通する実技および理論系科目を履修することで多様な視点を持った音楽観やコミュニケーション能力を身に付け、これらを基に社会とのつながりを深められる人材育成を行います。卒業後は学校教員や音楽教育者、オーケストラ奏者をはじめとするプロ活動など、大学で培った実力を県内外・海外で発揮しています。

専任教員｜声楽コース

片桐　仁美 教　授（アルト）
五郎部 俊朗 教　授（テノール）
山内　昌也 准教授（テノール）
松田 奈緒美 准教授（ソプラノ）
永井　友恵 助　手（ソプラノ）

専任教員｜ピアノコース

小杉　裕一 教　授
小沢 麻由子 准教授

専任教員｜弦楽コース

岡田　光樹 教　授（ヴァイオリン）
林　　裕 教　授（チェロ）

専任教員｜管打楽コース

阿部　雅人 教　授（ホルン）
澤村　康恵 准教授（クラリネット）
倉橋　健 准教授（トランペット）
屋比久 理夏 准教授（打楽器）
飯島　諒助 教（フルート）

専任教員｜作曲理論コース

近藤　春惠 教　授
土井 智恵子 准教授

教員からのメッセージ



岡田 光樹

自分と音楽に向き合う時間を！

声楽から作曲理論まで、５つのコースで構成された音楽表現専攻では、それぞれのコースの特色を生かした専門分野の学習はもちろんのこと、小規模校ならではのメリットを生かした、きめ細かい指導を行います。近年では、専攻・コースの枠を超えた琉球芸能とのコラボレーションなど、新たな芸術表現に挑む人たちも増えてきました。現代社会において、芸術や音楽の果たす役割が今まで以上に期待されるようにも思われます。独自の歴史文化をもつ沖縄において、じっくりと音楽や自己に向き合い、新たな挑戦をしたいと考えている皆さんとの出会いを待っています。

声楽コース

アドミッション・ポリシー

音楽に興味を持ち、歌が好きで、音楽の総合的な研究を通して自らの世界を見つけたいと思っている人を求めています。

カリキュラム・ポリシー

声楽家や音楽教育者等として活躍し得る人材育成を目標としています。独唱、合唱、重唱、オペラなどの授業を通して、声楽技術の習得と感性を養う指導を行い、それと合わせて音声生理学・舞台語発音演習・和声・音楽史等の授業で、知識と理解を深めるカリキュラムとなっています。






［左上から］
３年次オペラ／４年次オペラ／合唱／松田先生レッスン風景

声楽コースの必修科目

- 声楽実技
- オペラ総合実習
- 舞台表現演習
- ソルフェージュ
- 副科ピアノ
- 合唱
- 重唱
- 音楽基礎演習
- 和声
- 西洋音楽通史

知念 由芙（ちねん　ゆう）



（沖縄県出身）
2019年10月現在
大学院音楽芸術研究科演奏芸術専攻
声楽専修

私は、学部を音楽学専攻で卒業し、大学院から声楽専修の学生として学んでいます。声楽の道を目指すきっかけとなったのは、副科声楽の授業でした。先生の熱心な指導のおかげで、徐々に声楽の世界に魅了されるようになりました。また、学部時代に交換留学生としてイタリアに１年間留学したことで、声楽を本格的に勉強したいと思うようになりました。
同じ学校で学部時代を過ごしたとはいえ、大学院から歌の勉強を始めるのは想像以上に大変なことでした。しかし少人数制の本学では、先生方から歌の基本的な事から技巧的な事までをじっくりと教わる事ができます。
そのおかげで、今では実技ならではの達成感や満足感が生まれるようになりました。

ピアノコース

アドミッション・ポリシー

ピアノ音楽に興味と探究心を持ち、音楽をこよなく愛する人を求めています。独奏だけでなく、伴奏やアンサンブルを通じて、音楽的・人間的な幅を広げたいという意欲を持っている人を求めています。

カリキュラム・ポリシー

専門実技を軸に、4年間を通して段階的に独奏及びアンサンブルの演奏能力を高めるとともに、音楽理論や音楽史等で学んだ知識を踏まえ、適切な演奏法を習得します。地域社会との連携を含む学内外での多くの演奏実践を通して社会性を培い、音楽の普遍的な魅力を次世代に伝えられる豊かな感性を備えた人材育成を目指します。






［左上から］
小杉先生レッスン風景／ピアノ構造学　授業風景
学内演奏会（重奏）／卒業演奏会

ピアノコースの必修科目

- ピアノ実技
- ピアノ重奏
- 伴奏法
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 西洋音楽通史
- 鍵盤音楽史
- ピアノ構造学

砂辺 絢斗（すなべ　あやと）



（沖縄県出身）
2019年10月現在
大学院音楽芸術研究科
ピアノ専修

本学は日本で数少ない、音楽学部を有する公立の芸術大学の一つです。それは沖縄出身の私にとって、地理的にも経済的にも大きな魅力でした。

他大学に比べても少人数制をとっているので、現在も演奏家として第一線で活躍されている先生方から充実した指導を受けることができます。また、多くの演奏会や試験で学生全員が奏楽堂ホールで演奏させて頂けるのは他大学には無い大きな魅力です。ピアノ独奏に限らず、ピアノ重奏や室内楽、他専攻の伴奏など、多くの演奏機会に恵まれ、私自身も幅広いレパートリーを学ぶことが出来ました。

また、琉球芸能や美術の学生との交流も盛んで、同じ舞台で共に刺激を受け合うことで、ピアノの特性や特色が広い視野の中から客観的に見えるようになりました。

充実した環境と自由な校風の中で、あなたもこの沖縄で共に音楽を学んでみませんか。

弦楽コース

アドミッション・ポリシー

弦楽器を通して音楽を探求し、広く芸術分野で自己を表現したいと思っている人を求めています。

カリキュラム・ポリシー

古典から現代に至るさまざまな作品を課題として、弦楽器の独奏と合奏（アンサンブル）を学習します。専門実技（独奏）を中心に、室内楽、弦楽合奏及びオーケストラといったアンサンブルの実践的学習を通して、演奏技術や表現について体系的に学習するとともに、学生の関心に応じた科目設定ができます。






［左上から］
弦楽合奏／弦楽合奏　授業風景
岡田先生レッスン風景／弦楽アンサンブル基礎　授業風景

弦楽コースの必修科目

- 弦楽実技
- 弦楽アンサンブル基礎
- 弦楽合奏
- オーケストラ
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 和声
- 副科声楽
- 西洋音楽通史
- 副科ピアノ

五百井 音（いおい　おと）



（兵庫県出身）
2019年10月現在
弦楽コース2年次

本州とは異なる気候、津々浦々から集まり芸術を学ぶ学生、プロフェッショナルの先生方。そして毎日様々な人々が行き交う首里城のお膝元のキャンパスで、私はチェロを専攻しています。教員免許と学芸員資格を取得するために授業を履修しつつ、チェロの奏法を更に知るために毎日音楽棟で練習しています。多様性を叫ばれる今の時代に、様々な人が行き交い集う沖縄であるからこそ、学びながら自分を見つめることができます。いずれ琉球時代の人々の如く世界へ航海したい、そんな想いをもつ毎日です。ソロもアンサンブルも演奏の機会はとても充実しています。苦しい時もありますが、美しい沖縄が癒してくれて、いつか思い出に変えてくれそうです。

管打楽コース

アドミッション・ポリシー

それぞれの専門楽器の演奏向上に努め、広く芸術分野で活躍できる人を求めています。また、音楽を通して豊かな人間性、社会性を身に付けたいという意欲のある人を求めています。

カリキュラム・ポリシー

管打楽コースは木管楽器、金管楽器、打楽器に大別されます。楽器種ごとに経験豊かな教員が段階的にきめ細かい指導を行うことにより、高度な技術と豊かな音楽性を持った音楽家・指導者の育成を目指します。室内楽・管打合奏ではアンサンブルの技術だけではなく、協調性や社会性を養います。１年次から４年次までソロやオーケストラなど、数多くの演奏会に出演することで多くのことを学修することができます。







［左上から］
管打合奏学内演奏会／
室内楽定期演奏会／屋比久先生レッスン風景

管打楽コースの必修科目

- 管打楽実技
- オーケストラ
- ソルフェージュ
- 西洋音楽通史
- 管打合奏
- 音楽基礎演習
- 和声
- 副科ピアノ

喜納 薫音（きな　ゆきね）



（沖縄県出身）
2019年10月現在
管打楽コース4年次

ここ沖縄県立芸術大学では少人数制という特徴があり、レッスンを一人一人時間をかけて丁寧に見てくださったり、オーケストラや吹奏楽、室内楽などの授業で多くの曲数を演奏することができるので沢山の経験を積むことができます。
また、専攻の先生方はもちろん専攻外の先生方まで一人一人のことをよく見てくださり、声をかけてくださるなど少人数だからこその魅力が沢山あります。
学生は北海道をはじめ全国各地からこの大学に学びに来ており、交流する機会も多いので学年や楽器を問わず様々な人と仲良くなることができます。
沖縄の美しい自然や温かな気候の中で私たちと一緒に音楽を学びませんか？

作曲理論コース

アドミッション・ポリシー

古典から現代にいたる作曲作品を研究・分析し、創造的な音楽作品を生む能力を獲得することに意欲と情熱をもって取り組める人材を求めています。

カリキュラム・ポリシー

作曲理論の基礎的な能力を身に着け、古典から近・現代にいたる楽曲の研究を通して、作曲作品を制作することを目標としています。１年次の独奏楽器とピアノによる二重奏から、自由なアンサンブルによる４年次卒業作品まで、学年が進むにつれ様々な編成形態を経験できるようにカリキュラムが組まれており、各年次に作品を提出し、実音にする機会が与えられています。
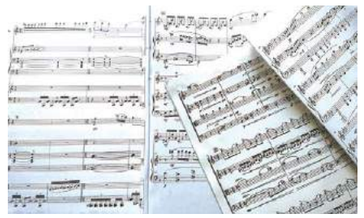








［左上から］
クラリネット、ピアノのための二重奏曲／ヴァイオリン、ピアノのための二重奏曲
弦楽四重奏曲／ヴァイオリン、2台ピアノのためのアンサンブル



スコア完成

作曲理論コースの必修科目

- 作曲実技
- 作曲演習
- 音楽基礎演習
- ソルフェージュ
- 楽曲分析
- 西洋音楽史
- 副科ピアノ

金城 亜美（きんじょう　あみ）



（沖縄県出身）
2019年10月現在
作曲理論コース2年次

本コースでは、古典から現代まで様々な作品の分析を通して作曲法を学ぶことができ、和声・対位法・管弦楽法等の理論面においても幅広く学ぶことが出来ます。そして毎年年度末に学年ごとにステップする編成での作品提出があり、試演会において実音にする機会が与えられます。その目標に向けて日々勉強を重ねていくのですが、より作曲について追及していくために、常日頃から様々な作品に触れていくことが重要であると思っています。
大学入学当初、私は技術や理論の勉強はしてきたものの、実際の作品に触れた経験がまだ充分ではありませんでした。作曲法を学びながらそれを痛感し、以来自発的にたくさんの音楽に触れるように心掛けています。先生方も学生の学びたいことに向き合い、様々なアドバイスや気づきを与えてくれたり、一緒に勉強する学生からも、日々刺激を受けられます。皆さんもこの沖縄県立芸術大学で一緒に音楽を学びませんか？

音楽文化専攻

Music Calture Studies Major

音楽を深く知って、
社会とつながる

●沖縄文化コース　●音楽学コース



沖縄文化コース

アドミッション・ポリシー

古典から現代に至る沖縄の音楽・芸能と文化について広い関心と問題意識を持ち、沖縄の音楽文化振興への貢献を目指したい人を求めています。

カリキュラム・ポリシー

１年次では、音楽文化に関する基礎知識や研究方法を学びます。学年が進むにつれ、沖縄音楽・芸能、舞台企画・制作についての専門的な講義、演習、また音楽関連施設等での実習を通してアートマネジメントの知識や経験を蓄積し、４年次には卒業制作または卒業論文を作成します。

専任教員｜沖縄文化コース

谷本　　裕 教　授（アートマネジメント・文化政策）
呉屋　淳子 准教授（文化人類学）
遠藤　美奈 准教授（民族音楽学）
神谷　武史 講　師（アートマネジメント・文化政策）

音楽文化専攻では、沖縄をはじめ日本やアジア、世界中のさまざまな音楽や芸能とその文化的脈略について学問的に理解し、自らのことばで的確に表現する力を身につけます。講義、実技科目によって音楽文化に関する歴史や理論、実践を幅広く学ぶとともに、演習、実習科目によって専門的能力を高め、沖縄県内のみならず国内外で音楽と社会の架け橋となる人材の育成を目指します。卒業後は、劇場やホール、実演団体の企画制作者、教員、地域の指導者、音楽関連及び一般企業や行政への就職、大学院への進学等、幅広い進路が選択可能です。

音楽学コース

アドミッション・ポリシー

ある程度の音楽的実践能力を背景に、さまざまな音楽や芸能とその文化的脈絡について広い関心と問題意識を持ち、深く考える能力を備えた人を求めています。

カリキュラム・ポリシー

１年次では、音楽文化に関する基礎知識や研究方法を学びます。学年が進むにつれ、資料批判や音楽理論、フィールドワークなどの専門的な講義、演習、また論文指導などの実習を通して音楽や芸能に関する知識や経験を蓄積し、４年次には卒業論文を作成します。

専任教員｜音楽学コース

小西　潤子 教　授（民族音楽学）
高瀬　澄子 教　授（日本音楽史）
倉橋　玲子 准教授（西洋音楽史）
向井　大策 准教授（西洋音楽史）

教員からのメッセージ



谷本裕

琉球王国の時代から、日本やアジアをはじめとする多様な文化を取り入れ、独自の芸能・芸術を生み出し、今なお世界を魅了し続ける沖縄。その土地にあって本学の音楽文化専攻では、西洋・日本・アジア太平洋の古典から現代に至る、極めて多様な音楽を多角的に学ぶことが出来ます。通常の講義のほか、音楽や芸能が生まれる現場でのフィールドワークや劇場・ホールでの研修なども通し、広く社会で活用出来る「たくましい知力」を培ってもらいます。









［左上から］
民族楽器の演奏体験／文献研究／宮沢和史講師の授業／学内ホール「奏楽堂」の見学

音楽文化専攻の必修科目

●音楽文化入門　●琉球音楽論　●民族音楽学　●西洋音楽史　●舞台制作演習

眞喜志 雛乃（まきし　ひなの）

（沖縄県出身）
2019年10月現在
大学院音楽芸術研究科音楽学専修



「音楽学って何をしているの？」と聞かれると、人によって研究の内容が異なっているため、一言では答えることができません。しかし共通して言えることは、各々が興味のあるテーマに辿り着くまでに、様々な音楽や実技を学び、音楽に対して多角的に向き合っていくところだと思います。

西洋・日本・民族・ポピュラー音楽といった多岐にわたる分野の音楽について学ぶことができるので、色々な音楽を知りたい！と思っている方にはオススメの専攻です。また、少人数という事もあり、音楽学研究の第一線で活躍されている先生方からきめ細かい指導を受けられることも魅力の一つだと思います。

あなたもまだ知らない音楽の世界を探求してみませんか。

森山 建（もりやま たける）

（新潟県出身）
2019年10月現在
音楽文化専攻 音楽学コース3年次



音楽を学ぶ、と書いて「音楽学」となります。これは非常に幅広い学問で、どんな種類の音楽を学ぶかはもちろん、文化人類学や社会学など様々な見方から音楽を研究することもできます。それが可能な環境が、音楽学コースなのです。

文章に自信がなくても、音楽の知識が偏っていても問題ありません。様々な分野を専門とされている教授陣が、生徒一人一人を手厚くサポートしてくれます。

演奏や作曲、パフォーマンスだけが音楽だと思っている方にこそ、おすすめしたいコースです。出身地や音楽経験などは一切関係ありません。自分の知らない音楽の世界を見つけてみたい、という方はぜひ音楽学コースへ。

琉球芸能専攻

Ryukyu Performing Arts Major

世界でただひとつ、
本学だけの教育研究分野

●琉球古典音楽コース
●琉球舞踊組踊コース








定期公演　組踊「二童敵討」／琉球古典音楽斉唱／学内演奏会　舞踊「かぎやで風」
学内演奏会　舞踊地謡／学内演奏会　組踊「執心鐘入」

沖縄の伝統音楽・芸能を教育研究の対象とした琉球芸能専攻は、琉球古典音楽コースと琉球舞踊組踊コースがあります。専門実技の研究だけでなく理論的な研究も行い、実習・実演を行っています。習得した技能は、琉球芸能定期公演や学内演奏会、外部団体からの出演依頼など学内外において発揮することができます。学生たちは４年間の大学生活を経て、さらなる研究を行うために大学院へ進学する者、プロとして実演家になる者、教育現場の教師、一般企業に勤めるなど様々な分野で活躍しています。

教員からのメッセージ



高嶺久枝

「故(ふる)きを温(たず)ねて新(あたら)しきを知(し)ろう」

琉球芸能は、琉球文化の象徴であり私たちが現代の生活で失ってきたものを豊かに保ち続けています。琉球芸能専攻では古典音楽や琉球舞踊・組踊の技術の習得だけでなく関連する理論や一般教養科目も学び研究する能力や琉球芸能を社会に発信するマネージメント能力を育成します。

先達が築き残してくれた世界文化遺産を継承し、琉球の歴史や文化に自分の歴史を重ね合わせ表現することを共に学んでみませんか。高い志を持って自己成長を求める学生を待っています。

琉球古典音楽コース

アドミッション・ポリシー

沖縄の伝統音楽に興味があり、その音楽の実技と理論を探究したいという情熱と意欲を持つ人を求めています。

カリキュラム・ポリシー

琉球古典音楽実技、地謡実技などの授業を通して専門実技を学びます。4年間で琉球古典音楽独唱、琉球舞踊や組踊地謡など幅広い技能を身につけ、琉球古典音楽の真髄に迫ります。併せて実技や理論、歴史を含めた日本・東洋・西洋音楽の技能や知識も修得し、格式高い琉球古典音楽を発信できる人を育成します。

専任教員｜琉球古典音楽コース

仲嶺　伸吾 教　授（琉球古典音楽）　島袋　　功 教　授（琉球古典音楽）
山内　昌也 教　授（琉球古典音楽）　嘉数　幸雅 助　手




琉球古典音楽コースの必修科目

●琉球古典音楽実技　●総合実習　●地謡実技　●琉球楽器実技
●関連琉舞組踊実技　●詞章研究　●琉球音楽基礎演習
●琉球芸能論　●琉球音楽論　●日本・東洋音楽史
●ソルフェージュ　●副科ピアノ　●副科声楽

琉球舞踊組踊コース

アドミッション・ポリシー

沖縄の伝統芸能に興味があり、琉球舞踊と組踊の実技と理論を探究し、琉球芸能に於ける視野を広げ、表現力を深めたいという情熱と意欲を持つ人材を求めています。

カリキュラム・ポリシー

琉球舞踊と組踊を実技と理論から段階的および専門的に学びます。歌三線、比較舞踊実技（能・日舞・八重山舞踊・バリ舞踊）、空手、古武術実技などの関連科目や楽劇鑑賞、フィールドワークなどによって幅広く琉球芸能を学びつつ、格式高い琉球芸能を発信できる人材を育成します。

専任教員｜琉球舞踊組踊コース

高嶺　久枝 教　授（琉球舞踊・組踊）　　比嘉いずみ 准教授（琉球舞踊）
阿嘉　　修 准教授（組踊）




琉球舞踊組踊コースの必修科目

●琉球舞踊実技　●組踊実技　●総合実習　●扮装実習
●地謡実技　●琉球芸能史　●琉球音楽論　●琉球芸能論
●詞章研究　●琉球語　●日本・東洋音楽史　●ソルフェージュ
●西洋音楽理論　●副科ピアノ　●副科声楽

町田 倫士（まちだ　のりと）

(沖縄県出身)
2020年4月
大学院 音楽芸術研究科
舞台芸術専攻 琉球古典音楽専修



本専攻の魅力は琉球古典音楽・琉球舞踊・組踊の実技習得のみならず、それらを理論的に学ぶことができるということです。琉球古典芸能の歴史的背景、また文学的側面に加え、音楽学的構造を学ぶことができる為、実演をする上で理論に基づいた理解を得ることができます。また、長唄や日本舞踊、生田流箏曲といった本土の邦楽、さらには西洋音楽理論など、多角的な講義が開設されているのも他の大学にはない魅力で、主科の講義以外にも様々な見識を広げることができます。

最近では、学内演奏会や定期演奏会の他に、学生自らが舞台を企画運営することも増えており、自らの課題を見つけながら様々なことに挑戦できることも魅力です。

奏楽堂　ここから生まれる芸術がある

奏楽堂は、３９０席を有するホールを中心として、遮音構造となっている講義室、合奏室等を備えており、入学式や卒業式等の式典行事の他、音楽実技の総合的実習や美術工芸学部における映像を利用した教育研究成果の発表など、学生が充実して実践を行える重要な施設となっています。

外観は屋根を可能な限り小ブロックに分けることで大きな単一面を避け、視覚的にも建物を大きく見せない工夫がなされています。ホール内部は、コンサート開催を主目的としながらも伝統芸能における舞台制作も行えるようそれぞれの使用目的に対応しています。

舞台の開口部の高さを一定の範囲で調整可能な方式とし、同様に残響においても、壁面の残響可変装置により目的に応じて残響を1.4～1.8秒に調整可能な、県内有数の響きの良い施設です。建設から30年近くを経て老朽化が進んできたため、令和元年度より4年間をかけて補修する予定になっています。









［上から］
奏楽堂外観／ホール客席
車椅子専用スペース

定期公演

定　期　公　演　令和元年度（平成31年度）
琉球芸能定期公演　2019年10月12日　奏楽堂ホール
洋 楽 定 期 公 演　2019年10月25日、26日　奏楽堂ホール

奏楽堂で開催されている音楽学部の定期公演です。令和元年度（平成31年度）は音楽学部開設30周年の節目に当たるため、定期公演も趣向を凝らした内容となりました。琉球芸能定期公演は「30年の歩み・原点をみつめ未来へ」と題し、第一部では琉球舞踊を中心とした古典的な作品と新しい創作作品を並べ、第二部には組踊「護佐丸敵討」を上演しました。洋楽定期公演は音楽表現専攻全教員と琉球芸能専攻教員が合同で出演し、音楽文化専攻教員が運営に協力するという、文字通り音楽学部が一丸となって取り組んだ定期公演となりました。





音楽学部の地域貢献

組踊上演300周年記念事業

期間：2019年4月1日～2020年3月31日
場所：うるま市、沖縄市、大宜味村、南風原町、那覇市（県内5市町村・開催順）
企画：琉球芸能専攻
助成：組踊上演300周年記念事業（沖縄県）

玉城朝薫を創始者とする組踊は、1972年に国の重要無形文化財に指定、2010年にユネスコ世界無形文化遺産として登録された沖縄の伝統芸能の一つです。1719年の初演から300年という歴史的節目の年である2019年に、本学では県内外をはじめ海外の方へ広く沖縄文化を発信すべく、「組踊上演300周年記念　県立芸大　組踊・琉舞公演」を企画し、11月から約２ヶ月間にわたり沖縄県内5市町村で公演を実施しました。



糸満市立米須小学校・三和中学校大度分校 台湾絲竹音楽コンサート

期日：2019年11月16日
場所：糸満市
助成：国立台湾師範大学民族音楽研究科2019沖縄県立藝術大学交流計画

国立台湾師範大学民族音楽研究科で伝統楽器の演奏を学ぶ6人らが、県内初の児童心理治療施設に併設された糸満市立米須小学校大度分校・三和中学校大度分校の皆さんに、台湾の絲竹音楽（室内楽）を紹介しました。本学の「学外実習」の一環として、事前準備、司会、一部合同演奏は、上田勇貴（ピアノコース4年）さんが行いました。児童生徒の皆さんは、珍しい楽器やその美しい音色、台湾の文化に興味津々で、音楽の力を再認識しました。



ぬちぬぐすーじさびらin摩文仁 第４回レクイエムコンサート

期日：2019年6月16日
場所：沖縄平和祈念堂（糸満市）

戦没者の慰霊と恒久平和への願いを込めて、6月に糸満市摩文仁の平和祈念堂にて「第4回モーツァルトレクイエムコンサート」を開催しました。公演ではバッハ作曲「管弦楽組曲第３番 ニ長調よりアリア」、モーツアルト作曲「レクイエム」、「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を演奏し、会場は荘厳な祈りに包まれました。また、初の公募によって参集された一般市民の皆様にもご参加いただき、過去最多人数の合唱団となりました。



文化庁助成事業「地域芸能と歩む」

期間：2019年4月1日～2020年3月31日
場所：南城市、読谷村、伊江村、宮城県山元町
企画：
事業統括・プログラムディレクター　向井大策（音楽学部准教授）
プログラムコーディネーター　呉屋淳子（音楽学部准教授）
助成：2019年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業

本学では「2019年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業」に採択され、『今を生きる人々と育む地域芸能の未来～「保存」から「持続可能性」への転換を志向する場の形成と人材育成～』プロジェクトを立ち上げました。一年間を通じて、レクチャー・シリーズ、対話プログラム、アーティスト・イン・レジデンスなど11のプログラムを企画し、地域の方々と協働しながら、沖縄の地域文化の多様性に根ざした人材育成事業を実施しました。



全学教育センター

本学の教養教育と資格課程教育は「全学教育センター」が運営しています。全学教育センターは、美術工芸学部・音楽学部・附属研究所の教員によって構成され、学部の垣根を越えた全学教育を推進します。

全学教育科目

本学における全学教育科目は、将来、専門教育の成果を社会で充分に活かせるよう、社会性と豊かな人間性を兼ね備えた、文化的素養と国際感覚のある人材の育成を目指します。

全学教育科目は、以下の６つの区分から成っています。

全学教育科目

初年次科目		初年次セミナー
リテラシー科目	日本語	国語表現法
	情　報	コンピュータ情報論
	外国語	英語Ⅰ・Ⅱ 英語講読A・B 英文法 英作文 英語特演Ⅰ・Ⅱ 独語Ⅰ～Ⅳ 独語特演A・B 仏語Ⅰ～Ⅳ 仏語特演A・B 伊語Ⅰ～Ⅳ 伊語特演A・B 中国語Ⅰ～Ⅳ 中国語特演A・B 日本語初級Ⅰ・Ⅱ 日本語中級Ⅰ・Ⅱ 日本語上級Ⅰ・Ⅱ 日本語特演
一般教養科目	人文科学系	哲学A・B 宗教学 言語学A・B 文学概論 中国文学 日本文学
	社会科学系	考古学 歴史学A・B 日本国憲法 文化人類学 心理学 障害福祉概論
	自然科学系	数学 化学 生物多様性学 基礎生物学 生命科学 自然科学概論 物理学
芸術教養科目		美学 現代芸術概論 美術史 民族音楽学概論 音楽史 ポピュラー音楽論 演劇概論 アートマネジメント概論 芸術とキャリアデザインⅠ 芸術と風土 芸術と科学 言語と文化 芸術と心の臨床
沖縄の文化に関する科目		琉球文学 琉球沖縄史A・B 民俗学 自然環境論 沖縄学 沖縄美術工芸史 琉球芸能文化論 琉球語基礎
健　康・運動科目		健康・運動理論 健康・運動実技A・B

【初年次科目】

初年次科目は、全ての新入生を対象（必修）とし、高校から大学への移行を円滑に促すため、大学における学修や生活に必要な技能や知識、態度や心構えを身につける目的で開設されます。

【リテラシー科目】

リテラシー科目は、言語コミュニケーション能力や情報コミュニケーション能力の養成を目的として開設され、学修活動の基礎となる自己表現力を磨く科目です。



【一般教養科目】

一般教養科目は、人文科学、社会科学、自然科学の3分野で構成されており、教養の基礎を学ぶための科目が広く置かれています。





【芸術教養科目】

芸術教養科目は、広範な芸術に関する教養を身につけるために開設され、専門以外の芸術諸領域についても学べるようになっています。



【沖縄の文化に関する科目】

沖縄の文化に関する科目は、沖縄文化に関する広範な教養を身につけるために開設し、沖縄の歴史、文化、自然、芸術などの諸領域について深く学べるようになっています。

【健康・運動科目】

健康・運動科目は、理論と実技を通して健康に関する正しい知識と態度を身につけ、生涯にわたって健康で豊かな生活をつくり上げていくための基本的な姿勢を培うことを目的としています。



全学教育センターの地域貢献
「おきげい教養講座」

本学において教養教育や資格課程を担当する教員が、日頃の教育・研究を広く公開することを目的として、2016年度より開講しています。2016～2019年度に20回の講座を実施しました。



(2019年度開設講座例)

- 「人がつながる学びの場をつくろう!」城間祥子（教育心理学）
- 「中国故宮と首里城」森達也（博物館学/中国陶磁器考古学/陶磁史/東西交流史）
- 「データから読むいじめ」芳澤拓也（教育学）
- 「再発見:首里・まち・歴史 ロゲイニング体験会」張本文昭（身体教育学）

資格課程

教育職員免許状取得希望者は、本学を卒業するために必要な単位を修得し、かつ免許教科の種類に応じ、所定の単位を履修すれば美術、工芸、音楽などの教育職員免許状を取得できます。また、同様に博物館学課程の所定の単位を履修すれば、博物館学芸員の資格を取得することができます。

【教職課程】

本学教職課程では、①地域の独自性と得意分野を持つ教員、②国語力・書く力を持つ教員、③語学力を持つ教員、④教育相談能力を持つ教員の４つの力を持つようなバランスのとれた教員の育成を目指しています。

本学で取得できる教員免許状は、まず、美術工芸学部では中学校教諭１種免許状（美術）、高等学校教諭１種免許状（美術）です。また、工芸専攻では前記の二つの免許状に加え高等学校１種免許状（工芸）を取得できます。次に、音楽学部では中学校教諭１種免許状（音楽）、高等学校教諭１種免許状（音楽）を取得することができます。さらに、大学院では、中学校教諭専修免許状（美術、音楽）、高等学校教諭専修免許状（美術、工芸、音楽）を取得することができます。※１

中学校教諭免許状を取得すれば小学校の「図画工作」、「音楽」の専科教員になることもできます。現在、本学にて教員免許を取得した多くの卒業生が、本務あるいは非常勤の教員として活躍しています。

教員免許状の授与に至るまでには、卒業に必要とされる科目の他に「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」等の科目を履修しなければなりません。

さらに、中学校の教員免許状を取得するには、「介護等体験」を7日間（社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間）行わなければなりません。本来、教職は専門性の極めて高い職業です。幅広い教養と教員としての資質や適性はもとより、教育に関する理念、児童・生徒の成長・発達についての理解、教科に関する深い専門知識と豊かな指導力が求められます。また、実際に教員になるためには、公立学校の場合、厳しい教員採用試験に合格しなければなりません。そのため、教職課程を履修するには、堅実な動機と周到な履修計画が望まれます。

※１　専攻によって取得できる免許種が異なります。

１.教育の基礎的理解に関する科目等

教職に関する科目については、免許状の種類及び免許教科に応じ、次の通り履修しなければなりません。

授業科目	教職実践演習（中・高） 教育実習（短期） 教育実習（長期） 教育方法 学校カウンセリング 生徒・進路指導論 特別活動 総合的な学習の時間の指導法 道徳の理論及び指導法 教育課程 特別支援教育 教育心理学 教育行政 教職論 教育原理





２.教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目については、免許状の種類及び免許教科に応じて、次のとおり履修しなければなりません。

（美術工芸学部）

免許状の種類	教免科許	教科及び教科の指導法に関する科目	履修単位は規定による
中学校教諭１種免許状	美術	**絵画**（映像メディア表現を含む。） **彫刻** **デザイン**（映像メディア表現を含む。） **工芸** **美術理論及び美術史**（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。） **各教科の指導法**（情報機器及び教材の活用を含む。）	
高等学校教諭１種免許状	美術	**絵画**（映像メディア表現を含む。） **彫刻** **デザイン**（映像メディア表現を含む。） **美術理論及び美術史**（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。） **各教科の指導法**（情報機器及び教材の活用を含む。）	
	工芸	**図法及び製図** **デザイン** **工芸制作**（プロダクト制作を含む。） **工芸理論、デザイン理論及び美術史**（鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。） **各教科の指導法**（情報機器及び教材の活用を含む。）	

（音楽学部）

免許状の種類	教免科許	教科及び教科の指導法に関する科目	履修単位は規定による
中学校教諭１種免許状	音楽	**ソルフェージュ** **声楽**（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。） **器楽**（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。） **指揮法** **音楽理論・作曲法**（編曲法を含む。）**・音楽史**（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。） **各教科の指導法**（情報機器及び教材の活用を含む。）	
高等学校教諭１種免許状	音楽	**ソルフェージュ** **声楽**（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。） **器楽**（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。） **指揮法** **音楽理論・作曲法**（編曲法を含む。）**・音楽史**（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。） **各教科の指導法**（情報機器及び教材の活用を含む。）	

【博物館学課程】

博物館において、資料の収集・保管・展示・教育普及など専門的な仕事を司る職員を「学芸員」といいます。博物館学課程は、この「学芸員」となる資格を取得するための課程です。

本学では、芸術大学である特性を踏まえ、美術または音楽を専門とする学芸員を育てるカリキュラムを設けています。

今日の博物館は多様化し、実にさまざまな役割を担っています。卒業生は、沖縄県内外の博物館や美術館に学芸員として就職し、芸術と社会の架け橋となって活躍しています。



博物館実習風景

博物館学課程の授業科目及び履修単位

1　指定教育科目(19単位)	
生涯学習概論	博物館展示論
博物館概論	博物館情報・メディア論
博物館経営論	博物館教育論
博物館資料論	博物館実習
博物館資料保存論	
2　関連教育科目	
前記1の指定教育科目に加え、各学部が所属学生へ提供する関連教育科目16単位を履修する必要があります。（詳細は「履修案内」を参照すること）	



博物館実習風景

専任教員｜全学教育科目担当

波平　八郎　教　授（日本文学）
高良　則子　教　授（英語学／言語学／英語教育）
張本　文昭　准教授（野外教育／身体教育学）
藤田　喜久　准教授（海洋生物学）
麻生　伸一　准教授（歴史学／琉球史）

専任教員｜教職課程

芳澤　拓也　教　授（教育学）
城間　祥子　准教授（教育心理学）

専任教員｜博物館学課程

森　　達也　教授（博物館学／中国陶磁考古学／陶磁史／東西交流史）

大学院
Graduate School

造形芸術研究科　修士課程

教育理念･目標

造形芸術研究科は、造形芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴やそれらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性の見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追究する比較芸術学・民族芸術文化学の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性をもち、創造力豊かで、将来の社会における造形芸術分野の幅広い実践活動を担う作家や研究者、芸術教育の専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

ディプロマ・ポリシー
（学位授与の方針）

本研究科の教育理念・目的に沿った教育課程で成果をあげ、修士作品もしくは修士論文の審査および試験に合格し、所定の単位を取得した学生には修士（芸術）の学位が授与されます。学生が在学中に到達する目標は以下のとおりです。

1 より幅広い視野から芸術を理解する学識を身につける。
2 より高い専門分野における研究能力を身につける。
3 専門分野における知識・技術を応用し、幅広い分野で活躍し、社会に発信する力を身につける。

カリキュラム・ポリシー
（教育課程編成・実施の方針）

造形芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、以下を目的としたカリキュラムを編成します。

1 学部における教養教育と専門的素養の基礎の上にたった、さらに幅広い深い技術及び学識を涵養する。
2 造形芸術についての高度な技術及び知識の育成のために、自律的に研究を進める能力を養う。
3 専門知識や技術を社会で活用し、新たな芸術創造の可能性を広げる応用能力を培う。

アドミッション・ポリシー
（入学者受入れの方針）

本研究科の教育理念に基づき、次のような点を入学者選抜の判定の主眼としています。

1 幅広い教養と造形芸術分野の専門的素養を備えているか。
2 専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
3 現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

生活造形専攻

工芸専修



染研究室では、古典紅型を調査研究し、筒引き・型染の表現における形態を学びます。顔料彩色と藍染の表現の違いを学ぶ事で適正材料の知識を得ます。それを基に自己の防染法の表現方法を広げ、現代に即応した創作活動、理論的な研究制作を目標とします。

織研究室では、沖縄の染織技法、その他綴れ等の技法を活用した制作、琉球藍などの天然染料や素材の調査研究を行います。また、沖縄を含め日本・アジアの染織に関する調査・研究を行い、伝統的な技術の伝承や創作性への展開にも取り組みます。

陶磁器研究室では、器物作品制作と造形作品制作に分かれ、それぞれの専門的実技と理論を習得します。教育内容としては、１年次には素地土の調整と釉薬原料の研究など成形技術と比較焼成（黒陶・野焼）を含む実習を主眼とし、２年次ではより高度な焼成技術と加飾技法を課題として研究制作を行います。

漆工研究室では、学部での教育課程を土台とし、各自の研究テーマを中心に高度で実践的な研究を行うと共に、琉球漆芸を含む日本漆芸全体の伝統技法の研究もより深く継続していきます。時代や社会をより意識し、独創的な表現を探求しながら、現代社会に貢献できる人材の育成を目標とします。

デザイン専修



デザイン専修は、視覚伝達デザイン研究室と生活環境デザイン研究室から成ります。

視覚伝達デザイン研究室では、グラフィックデザイン、映像デザイン及び空間演出における視覚的な表現などを研究領域とし、制作を通じてビジュアルコミュニケーションデザインの在り方を追求します。

生活環境デザイン研究室では、公共空間のスペースデザイン、居住空間、家具等のデザインや地域性を勘案した製品デザイン等の造形を研究領域とし、論理的なデザインプロセスの構築手法から実践的でより高度な造形表現を追求します。

環境造形専攻

絵画専修



絵画専修では、学部での教育課程の学修成果を踏まえ、自己の創出する研究テーマに基づき、より高度で実践的な研究を行い、将来にわたって専門家として主体的に課題テーマを探求し、独創的な美術表現や創作活動、美的価値を創出しうる研究能力の育成を目指します。

油画研究室においては、油画、版表現、平面表現、さらに映像表現、インスタレーションを研究領域とし、日本画研究室においては、伝統的な材料技法に基づく古典から現代を通した高度な修練を現代における自己の表現として確立をめざします。

彫刻専修



彫刻専修では、学部の教育課程において培った教養と彫刻分野の専門的素養の上に立ち、それぞれの領域における学生の研究テーマに基づき、より高度で実践的な研究を行います。その上で、将来にわたって作家などの専門家として自ら主体的に課題を創出し、独創的な表現方法の探求を継続していくための研究能力の育成を目指します。また、今日の多様な表現領域の中で、特殊な材料・造形技法の分野についても高度な内容の充実を図り、それらを積極的に応用していく能力を養います。

比較芸術学専攻

比較芸術学専修



比較芸術学専修では、日本、琉球、東洋及び西洋の芸術学･美術史の比較研究を基盤として、古典から現代にわたる歴史的な視点にたち、あわせて国際的にも地域社会に対しても広い視野をもって美術を理論的に把握し、現代の芸術にも建設的な批判精神を養うことを目的としています。

また、沖縄の地域文化の特性と伝統は、日本のみならずアジア各地域の文化と比較しても極めて豊かな内容をもっています。その固有の風土によって培われた芸術文化を民族文化学、アジア工芸史、比較文化学、琉球文学及び日本文学の立場から研究することを目的としています。

音楽芸術研究科　修士課程

教育理念･目標

音楽芸術研究科は、音楽芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴やそれらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性の見地から、広く東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立った芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な芸能の実態と伝統的芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追求する音楽構造学および民族音楽学等の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性を持ち、創造力豊かで将来の社会における音楽芸術分野の幅広い実践活動を担う演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

ディプロマ・ポリシー
（修士認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科では、教育の理念に沿った高度な専門教育において成果をあげ、修士演奏、修士作品又は修士論文の提出を経て、所定の修了単位を取得した学生に対し、修士（芸術）の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

1 音楽芸術の各分野における高度な専門的能力と知識を有し、東西の美意識や理論を深く理解し、豊かな表現力を備えている。
2 音楽芸術の実践活動や専門的指導者、研究者に求められるコミュニケーション能力、論理的思考力、文章表現力などの汎用的能力を身につけている。
3 修了後も社会的責任を認識し、音楽芸術の専門家として自立して活躍するとともに、自ら学び続ける能力を身につけている。
4 １から３までの高度な能力や知識等を総合的に活用し、創造的な思考力をもって自らの課題を探求し、解決する能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー
（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科のカリキュラムは、学士課程で培った基礎的能力と音楽芸術の各分野における専門科目で培った基礎能力と知識の上に立って、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、２年間を通して高度な専門分野の実技や理論を段階的に履修することを基本に、授業科目を編成します。そして、専門関連分野の技術や学問を深く主体的に学べるように配慮し、音楽家や研究者などの専門家として音楽芸術の発展に寄与するための能力を高める教育を行います。

アドミッション・ポリシー
（入学者受入れの方針）

1 教育の理念
　沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統的な音楽芸術の継承と発展にとどまらず、芸術文化に対する深い理解と感性をもちながら新たな音楽芸術創造の可能性を広げる音楽芸能分野の専門家として活躍できる人材を育成していきます。
2 本研究科の求める人材
　本研究科の教育の理念をよく理解し、学習に必要な基礎能力、表現技術、知識および表現力を備えるとともに、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していくために自ら課題を見出し、研究する意欲に満ちた人を求めます。
3 入学者選抜の実施
　２に掲げる能力や意欲を持つ志願者を受け入れるため、本研究科の入学試験ではアドミッション・ポリシーに基づき、専門試験、基礎能力試験、語学試験を実施しています。

舞台芸術専攻

琉球古典音楽専修



琉球古典音楽専修では、琉球古典音楽独唱、琉球舞踊組踊地謡を独演できる技量が求められます。

琉球古典音楽研究では、大昔節（茶屋節・昔蝶節・十七八節・長ぢゃんな節・仲節）の演奏表現を研究します。それらを最終的には修士演奏で発表します。また演奏技術修得だけでなく理論的にも追求し、副論文の作成にも取り組みます。

琉球舞踊組踊専修

琉球舞踊組踊専修では、代表的な古典舞踊や雑踊、又は組踊の基本的な役柄の演技と唱えを修得していることが求められます。

琉球舞踊組踊研究（舞踊）では、琉球舞踊に関連する身体表現を研究し、琉球舞踊組踊研究（組踊）では、諸様式・役柄の心情表現等を研究します。また、舞踊論研究、琉球楽劇論研究などの理論研究を通して古典芸能の理解を深め、創作能力を身につけます。

修士演奏では、古典又は創作などが課せられ、いずれも内容に即した副論文の作成にも取り組みます。

演奏芸術専攻

声楽専修

声楽専修では、学部で学んだ基礎を活用しながら、より高度な研究を行い、舞台で活躍できる人材を育てることを目的としています。カリキュラムを通し、幅広い学識を深め、自分の声と表現の特質を把握し、レパートリーの確立を目指します。将来、コンサート歌手としてリサイタルを開催するために必要な演奏技術と音楽表現を学び、またオペラ歌手として一つの役を歌い演ずる歌唱技術と演技力を身につけます。さらに、協奏曲研究にてオーケストラと共演する機会も与えられます。

ピアノ専修

ピアノ専修では、より高い次元での演奏を目指して、幅広い視野に立ち自身の研究を追究してゆこうとする人材を求めています。ピアノ研究ではリサイタルを1回以上開催できるレパートリーの拡充を目標とし、協奏曲研究では本学のオーケストラとの共演により、より大きなスケールでの演奏表現を体得し実践します。

管弦打楽専修

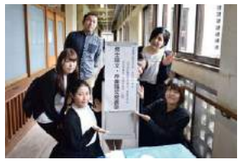


管弦打楽専修では、学士課程において培った専門実技の技術をさらに高め、研鑽を重ねようとする強い意志を持った人材を求めています。管弦打楽研究の個人指導を中心に、オーケストラ、室内楽等、器楽奏者として必要な分野を深く研究します。協奏曲研究ではソリストとして大学のオーケストラと共演します。

協奏曲研究

音楽学専攻

音楽学専修



音楽学専修では、音楽や舞踊の学問的研究を通して、社会に資する人材の養成を目的とします。音楽史・民族音楽学・舞踊芸能論の三つの研究領域があり、沖縄をはじめ、世界各地の音楽を対象とします。専門の研究領域だけでなく、隣接する研究領域の知識を身につけ、新たな知見と研究方法を確立し、修士論文を提出します。

作曲専修

作曲専修では、学部で培った作曲の基礎的な力を元に研鑽を重ね、独自の創作表現へと広げ高めていく意欲が求められます。作曲演習では、作品分析・研究を通して視野を広げ、作曲実習における実作能力の習熟成果として修士作品を制作し、副論文を提出します。各年次には、提出作品を実音にする試演の機会が与えられます。

芸術文化学研究科　後期博士課程

教育理念･目標

沖縄県立芸術大学大学院芸術文化学研究科は、本学大学院の後期博士課程です。
本学大学院は、建学の理念に基づき、伝統芸術・民族芸術の汎アジア的基盤での育成・研究をはかり、美術・音楽・芸能等諸芸術文化の国際的な比較研究の場を展開して、高度な専門知識と能力を有する指導者を育成すると同時に、とりわけ東アジア・東南アジアを結ぶ東アジア太平洋文化圏の伝統芸術の継承と新たな芸術の創造に資する国際的視野での総合的な芸術文化研究機関です。

ディプロマ・ポリシー
（学位授与の方針）

芸術文化学研究科では、研究指導を受け所定の単位を修得し、博士論文等の審査及び試験に合格した学生には、博士課程の修了を認定し、博士（芸術学）の学位を授与します。
比較芸術学研究領域・民族音楽学研究領域における博士論文、芸術表現研究領域における博士論文及び研究作品・研究演奏は、1）その専門分野において高度な研究内容であること、2）創造的、独創的な研究であること、3）その研究が国際的にも貢献できること等の観点から審査します。

カリキュラム・ポリシー
（教育課程編成・実施の方針）

芸術文化学研究科のカリキュラムは、芸術文化についての幅広い見識と、自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を養うような教育を行います。博士（芸術学）の学位を取得できるよう、博士論文等の完成を目標とした研究指導を中心に据え、実技と理論との結びつきを重視した本学ならではの科目である芸術表現総合比較研究Ⅰを必修とし、その他複数の領域の科目を自由に選択するように授業科目を編成しています。

アドミッション・ポリシー
（入学者受入れの方針）

1 **教育の理念**
本学の基本的な理念は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追求することにあります。これに基づき、芸術文化学研究科は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関する高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的としています。
2 **本研究科の求める人材**
芸術に関する基礎的な知識を備え、自立した研究者となるための意欲と能力と展望を備えていることを求めます。
3 **入学者選抜の実施**
2に掲げる人材を受け入れるため、専門的な学力試験、研究課題に関する口述試験を実施しています。

専攻案内

本大学院の芸術文化学研究科（後期博士課程）芸術文化学専攻には、比較芸術学と民族音楽学、芸術表現の三つの研究領域があり、それぞれの領域において専門の研究分野が設置されています。
学生はいずれかの研究分野に属して研究指導を受け、必修科目として「芸術表現総合比較研究Ⅰ」、選択必修科目として２科目以上（８単位以上）を履修し、博士論文等（博士論文、研究作品又は研究演奏）の審査に合格すれば修了することになります。

比較芸術学研究領域

○比較美学・芸術学の分野では、従来における西洋美学への偏重を反省しつつ、多様な美意識を体系的な見地から比較研究することによって、それぞれの特質および形成原理を解明することを主要な課題としています。とりわけ、芸術体験の価値構造の分析から導かれる諸契機により、東西の美意識を比較類型学的に解明することが目指されます。

○芸術批評史の分野においては、作家による作品の歴史という従来ありがちな美術史学の研究方法の限界を反省しつつ、美術作品を生み出してきた思想的、歴史的な背景を厳密な史料的把握を通じて、いわば精神史としての美術史を人文科学の諸方法を用いて構築することが目指されます。



○民族芸術文化学の分野では、諸民族における芸術と文化の役割について可能な限り実際のフィールドワークや実物資料、原資料に即して実証的研究を行います。例えば諸民族の工芸美術の比較研究、文学の比較研究、琉球の伝統芸能・伝統文化の研究、琉球史と世界各地の歴史との比較研究などを美術史学、歴史学、考古学、文学、文化人類学の諸方法を援用しつつ研究していきます。

民族音楽学研究領域

○音楽史の分野では、琉球、日本、東洋及び西洋の音楽について歴史的研究を行います。古文書古楽譜の分析解釈に加えて、今日まで伝承されている音楽を対象とする場合は、その音楽の実践に即した研究方法を探究します。

○民族音楽学の分野では、主に対象の中心を琉球の古典音楽に置き、琉球独自の言語表現による文学とも関わり、その音楽的構造や形態との関連を研究するとともに、あわせて琉球音楽の歴史的形成に寄与した東南アジア諸国の諸民族の音楽を民族音楽の視点から研究します。

○民族芸能論の分野では、音楽を主体とする諸民族の芸能の総合的研究として、現在の音楽学に欠落している重要な分野です。民族芸で能論が対象とする領域は、芸術的および民俗的な音楽をはじめとする舞踊・演劇および民俗芸能を包括し、とくに琉球の伝統的な組踊および琉球舞踊、および民俗芸能を研究の中核に構成しています。

芸術表現研究領域

○造形芸術の分野では、芸術家、研究家、教育者などとして自立した活動が行えるよう、より高度な作品制作能力を培い、それを理論的に支える研究の方法を学びます。また、人間の知的文化的活動の一つとしての造形芸術の意味と役割について、作品制作と研究を通して伝える能力を身につけます。



○音楽芸術の分野では、芸術家、研究者、教育者などとして自立した活動が行えるよう、より高度な舞台表現・作品制作能力を培い、それを理論的に支える研究の方法を学びます。また、社会、環境に根ざした表現活動としての音楽芸術の意味と役割について、舞台表現・作品制作と研究の両面から伝える能力を身につけます。



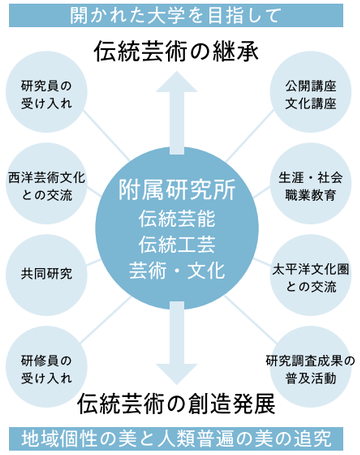
附属研究所

Research Institute



附属研究所は建学の理念等に基づき、地域社会との関連に重点を置いた調査研究活動のほか、一般県民を対象とした講座や移動大学といった地域貢献活動を行っています。講座は学生も受講可能で、沖縄学の講座では単位の取得もできます。

附属研究所設置の理念



附属研究所の目的

伝統芸術の特色の解明や一般県民への研究成果の普及啓発を通じて、後継者育成を図り、伝統文化の創造と発展に寄与すること

実施事業

地域の伝統芸術およびその関連分野の調査・研究／伝統芸術の後継者の育成指導に関する技法的研究・調査／文献および資料の収集・活用／研究成果の発表・公開講座の開催／研究会活動／国際交流／その他研究所が必要と認めた事項





移動大学in伊江島「三線教室」文化講座「組踊を多角的に考えるー初演から300年ー」

専任教員	附属研究所
久万田　晋	教　授（伝統芸能部門）
鈴木　耕太	准教授（芸術文化学部門）
新田　摂子	講　師（伝統工芸部門）

Pick UP! 1 移動大学は、小中学生を主な対象として離島地域で開催する事業で、県の離島地域振興計画に位置づけられています。美術工芸、音楽、空手、沖縄文化といった各種プログラムを体験講座として実施しているほか、琉球芸能等の公演、地域との交流があり、スタッフとして毎年教員だけでなく学生も参加しています。令和元年度は伊江島で開催しました。

Pick UP! 2 しまくとぅば実践教育事業を行っています。

過去５年間の実施事業一覧

平成27年度	移動大学in竹富島・小浜島、沖縄学「八重山の歴史と文化」、文化講座「中国・台湾の音楽芸能概論」、公開講座「子どものためのバリ音楽体験講座」、「バリのガムラン音楽の実践」、大学コンソーシアム沖縄「鎌倉芳太郎と琉球芸術」、我部政男特別講演会「私の沖縄研究－史料学を中心に－」、波照間永吉教授退任記念講演会「私の琉球文学研究－これからの課題－」、吉本忍特別講演会「沖縄伝統織物の歴史を探る」
平成28年度	移動大学in粟国島、沖縄学「近代沖縄芸術の展開」、公開講座「織物入門」、　文化講座「琉球・沖縄と四季」、「インドネシアのガムラン講座－ジャワとバリの２つの島の音楽の実践－」・「ガムランの生演奏によるバリ舞踊の実演とレクチャー－女性舞踊と男性舞踊を比べる－」・「子どものためのバリ音楽体験講座（小学生～高校生）」、大学コンソーシアム沖縄 県民向け公開講座「最新の紅型型紙研究」
平成29年度	移動大学in大宜味、沖縄学「琉球・沖縄芸術の構造」・「古文書を読もう。」・「ラオスの織物と伝統」・「IIIFで拓く、イメージ資料活用の可能性」・「古文書講座（ひらがな）」「音楽講座ケチャッのワークショップ」・「インドネシアのガムラン講座～バリとジャワ～」・「子どものためのバリ音楽体験講座」、特別講演会「柳悦州教授退任記念講演会」、大学コンソーシアム沖縄 県民向け公開講座「沖縄と映像・映画」
平成30年度	移動大学in波照間島、沖縄学「琉球・沖縄の技術史」、文化講座「古文書を読もう。」、「バリ島のガムラン音楽」、「子どものためのバリガムラン体験講座」、「ケチャッのワークショップ」、「ジャワ島のガムラン音楽」、「子どものためのジャワガムラン体験講座」
令和元年度	移動大学in伊江島、沖縄学「組踊を多角的に考える」、文化講座「琉球藍の建て方、染色法を学ぶ」、「組踊を読む　ひらがな購読講座」、「古文書を読もう」、「バリの男性舞踊家　イ・マデ・ステジャ氏特別講座～男性舞踊の基礎について～」、「バリ島のガムラン音楽」、「子どものためのバリガムラン体験講座」 令和元年度の事業や研究所事業の詳細については、ホームページをご覧ください→ http://ken.okigei.ac.jp/

附属図書・芸術資料館

University Library and Arts Museum



主な施設		
地下2階	収蔵庫(前室含む)	365㎡
	書庫	241㎡
地下1階	荷解室	29㎡
地下1階	閲覧室	358㎡
	簡易書庫	54㎡
	多目的室	90㎡
	視聴覚室	55㎡
地下2階	第１展示室	354㎡
	第２展示室	139㎡
	第３展示室	83㎡

蔵書数（平成31年３月31日現在）		
図書 80,657冊	和書	58,093冊
	洋書	14,467冊
	楽譜	8,097冊
雑誌 1,700冊	和雑誌	1,594誌
	洋雑誌	106誌
視聴覚資料		8,423点

附属図書・芸術資料館は芸術関係図書資料等を重点的に収集・保存している図書館と、国の重要文化財に指定されている資料を含む「鎌倉芳太郎資料」や、台湾先住民の織布を集めた「岡村吉右衛門資料」、アジアの織物を集めた「柳悦孝コレクション」など貴重な資料が収蔵されている芸術資料館からなる施設です。

図書館には、開架閲覧室、視聴覚室、多目的室があり学生の自主的な学習の場として活用されています。図書館ではＯＰＡＣで蔵書検索が行えますので、効率よく図書が見つかります。また、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用が可能です。専門スタッフもおりますので、お気軽にお声かけください。

芸術資料館には、３つの展示室があり、館主催の企画展のほか、教員、学生等による企画展や個展などが活発に開催され、芸術表現の場として活用されています。



大学収蔵コレクション









【主な企画展覧会】



平成30年度企画展

［左から］
「絹白地松皮菱繋檜扇団扇菊牡丹文様紅型踊衣裳」 城間 栄喜 1963年 絹／紅型／着物
「赤絵鳥紋輪花皿」 作家不明　制作年不明　陶磁器
「東道盆」 金城 唯喜　制作年不明　漆／沈金
「ﾐｾﾚｰﾚ52番」 ジョルジェ・ルオー 1926年 版画

施設紹介

※（　）は施設のあるキャンパス名です。
※「附属研究所」「附属図書・芸術資料館」は別頁（P43、P44）参照。



管理棟・一般教育棟（当蔵）

事務室のほか、一般教養を学ぶための教室があります。100名ほどが入れる大講義室やコンピュータ教室、ＬＬ教室も備えています。音楽棟とは芝生の中庭を挟んで向かい合っており、ベンチで休んでいる学生も見られます。



音楽棟（当蔵）

首里城と龍潭池のすぐそばに建っており、絶景を眺めることもできます。講義室、演習室、練習室、楽器庫のほか洋楽と琉球芸能の大合奏室と小合奏室がそれぞれ２つずつ、琉球舞踊の演習室が１つあります。



福利厚生棟（当蔵）

地下１階地上２階建てになっており、地下は学生食堂、１階はロビーが学生のフリースペースになっているほか、保健室、学生相談室、進路コーナー、国際交流室、留学生のための日本語教室の部屋となっています。２階は博士課程の研究室と学科室、図書室になっています。



奏楽堂（当蔵）

琉球芸能や洋楽、オペラの公演ができるホールのほか、講義室、合奏室、中合奏室、演習室、打楽器室、コントラバス室、録音室を兼ね備えたスタジオがあります。

授業で使用するほか、年間40回以上の公演に使用され、学生の練習場所としても活用されています。また、地域の主要なコンクールの主会場としても使用されています。



体育館（当蔵）

板張りのアリーナとトレーニング用具のあるホールからなる体育館は、健康・運動科目の授業で使用するほか、バドミントン等のサークル活動や学生のレクリエーションの場としても活用されています。運動だけでなく、壁面の大鏡を利用して舞踊の練習の場として使っている学生も多いようです。



美術棟（当蔵）

絵画専攻と芸術学専攻の学生が学ぶ教室があります。入り口を入ると開放的な空間にガラスで囲まれた石膏像資料室があり、大きな石膏像に圧倒されます。実習室、講義室のほか版画工房、写真工房を備えています。



デザイン中央棟（崎山）

学年毎の実習室のほかプロダクト工房作業室、素材加工室、セラミック室、設計製図室、プリント工房、映像スタジオ、紙漉き工房、腐蝕室、製版室、木工房、金属工房等といった幅広くデザインを学ぶために必要な設備があります。



工芸棟（崎山）

染色実験室や染工房、織工房がある染分野、織分野のスペースと漆芸の実習室、塗部屋、陶芸の実習室、制作室焼成室、石膏室があります。学生は各自、自分に与えられた充分なスペースで個性的な作品を制作しています。



彫刻棟（崎山）

塑造室、石彫実習室、テラコッタ・鋳造室、金属実習室、金属室、木彫室等を備えています。開放的な空間の中、それぞれの作業音が重なり合い、感性豊かな作品が生み出されています。

卒業後の進路 *Paths after Graduation*

就職への取り組み

造形芸術及び音楽・芸能の専門教育を行う本学では、21世紀を担う若き表現者を育成することを目指しております。一方、芸術大学ならではの独自性や創造性を企業、教育現場、博物館、美術館等さまざまな場所が求めており、本学で学んだ専門的スキルを余すことなく大いに活かす卒業生も少なくありません。

また、美術、工芸、音楽の教育職員免許状や博物館学芸員の資格も所定の単位を履修すれば取得できますので、多くの卒業生が学校教育の現場や博物館、美術館などでも活躍しています。

本学では、就職を希望する学生に応えるため、芸術大学としての進路相談や就職ガイダンスの実施、各種セミナーに取り組んでいます。

就職支援アドバイザーの取り組み

本学では学生の進路、就職に関する相談については、進路情報コーナーにて、就職支援アドバイザーが対応しています。沖縄県立芸術大学ならではの大らかな環境と文化の中で育まれた、ものづくりに対する真摯な思いとこだわりや豊かでしなやかな感性と創造性が社会の中でもさらに紡いでいけるよう、一人ひとりが納得度の高いキャリア形成に繋がるよう、きめ細かなサポートをしています。

【具体的な取り組み】

○進路・就職相談
- 履歴書やエントリーシートの書き方・添削
- 面接対策
- 自己分析・業界研究・企業研究
- 就職活動に関する疑問や、社会に出る不安解消、望むキャリアの構築などキャリアカウンセリング全般

○求人情報の提供
○各種就職ガイダンスの実施
○書籍の貸出
○学内外で行われる企業合同説明会や行政の行う大学生向け就職支援事業など、学生にとって活用しがいのある情報の把握及び情報提供

上記の活動に加えて、キャリア教育教員や外部就職支援機関（ハローワークや県キャリアセンター等）とも連携し、各学生の就活状況の情報共有を図り、共同で支援を行うことにより、多角的な観点から学生支援を行っています。

小さい大学ならではの学生一人ひとりへのきめ細かなサポートを実施しております。

キャリア支援事業の取り組み

本学学生の専門性を活かせるクリエイティブな職種・業種を中心として就職先を開拓し、本学学生にとって興味深い企業とのマッチングを図るほか、就職意識を醸成するさまざまな取り組みを行うことにより就職内定率の向上を図っています。

【主な取り組み】（令和元年度）

○県内・県外企業求人開拓
○学内合同企業説明会（出展企業10社程度）年２回
○就活ワークショップ
○県内・県外企業インターンシップ



学内合同企業説明会

卒業生の進路情報（平成30年度）

	美術工芸学部	音楽学部	大学院
卒業者数	**64**	**32**	**36**
進学者	19	14	1
就職者（作家・音楽活動含む）	27	8	27
その他	18	10	8

※その他（就職活動、進学準備、留学準備、進路未報告を含む）

主な就職先

美術工芸学部/大学院

絵画専攻

■沖縄県立博物館・美術館（文化の杜） ■南風原文化センター ■足立美術館（学習支援） ■那覇造形美術学院 ■（有）櫻井事務所 ■（株）JCC ■（株）楽樹タナストーン ■フリーカメラマン ■沖縄大学非常勤講師 ■沖縄こどもの国ワンダーミュージアム ■アカラギャラリー（ボクネン美術館） ■（株）ムービータイム ■丸正印刷（株） ■（株）ドラックストアモリ ■九州陶器 ■沖縄アミクス国際学園 ■SOLA沖縄学園 ■秋田公立美術大学 ■金沢21世紀美術館 ■NHK（日本放送協会）記者 ■（株）TLO ■（株）Summer Time Studio ■県内外の中学校・高等学校 ■沖縄県立芸術大学 ■他

彫刻専攻

■花王化粧品 ■賀茂輝酒造 ■（有）エム・ツー・フォトグラフィー ■（有）鬼亮 ■ROAD WORKS ■（株）クラフティズム ■オリオンビール（株） ■I.D.Aインターナショナルデザインアカデミー ■（株）MIC ■（株）パル ■中嶋プランニング ■金沢卯辰山工芸工房 ■クリエイトアイエムエス（株） ■自営業 ■山口大学 ■名古屋造形大学（非常勤） ■共立女子大学（非常勤） ■高等学校教員、小学校教員 ■沖縄県立芸術大学 ■他

芸術学専攻

■新潟市會津八一記念館 ■地中美術館 ■九州国立博物館 ■箱根彫刻の森美術館 ■浦添市美術館 ■那覇市歴史博物館 ■名護博物館 ■沖縄県立博物館・美術館 ■御殿場市役所 ■ボスフール（現・イオン北海道（株）） ■（株）ヨドバシカメラ ■（株）エスアールデザイン ■（株）光文堂コミュニケーションズ ■IBM ■NHK ■NECライベックス ■自営業 ■中学校教員、高等学校教員 ■沖縄県立芸術大学 ■他

デザイン専攻

<グラフィック系> ■電通テック ■（株）博報堂プロダクツ ■（株）SCOOP ■（株）たき工房 ■（株）エマエンタープライズ ■（株）宣伝（以上広告代理店） ■（株）フジタカクリエイション（アパレルデザイン） ■（株）光文堂コミュニケーションズ ■平山印刷（以上印刷）
<映像系> ■（株）PAワークス（アニメーション） ■日本アニメーション（株） ■（株）モノクラム（WEB） ■フォトアートたかの ■（株）あしびかんぱにー（ゲーム制作） ■沖縄テレビ ■（株）沖縄テレビ開発（テレビ企画・制作）
<プロダクト系> ■（株）GKデザイングループ（プロダクトデザイン） ■一般社団法人ものづくりネットワーク沖縄（製造） ■（株）沖縄三越環境デザイン（家具） ■（株）富士ファニチア（家具）
<建築・スペース系> ■そら植物園（株） ■（株）国建 ■（株）エスエヌジーデザイン一級建築士事務所 ■デザインスタジオ琉球樂団 ■（株）アレックス（以上建築設計） ■（株）船場 ■（有）スタプランニング（以上店舗デザイン） ■ナグモデザイン事務所（ランドスケープ）
<教育> ■県内外の小学校・中学校・高等学校教員 ■特別支援学級臨時教員 ■浦添市児童センター ■名古屋芸術大学（非常勤） ■沖縄県立芸術大学 ■他

工芸専攻

■紅型工房 ■織物工房 ■大嶺工房（陶芸工房） ■常秀工房（陶芸工房） ■国場陶芸（陶芸工房） ■工房　壱（陶芸工房） ■育陶園（陶芸工房） ■糸満工芸（陶芸工房） ■北窯（陶芸工房） ■Aki-art（陶芸工房） ■陶芸作家（自営） ■VIVACE（陶芸インストラクター） ■OVER LAND CLUB（陶芸インストラクター） ■体験王国むら咲む ら（陶芸インストラクター） ■アーバン（陶芸インストラクター） ■飛騨産業（株） ■凸版印刷（株） ■任天堂（株） ■中外国島（株） ■三星染色（株） ■（株）電通沖縄 ■（株）日比谷花壇 ■カメラマンアシスタント ■アパレルメーカー ■会社経営（芸能プロダクション） ■ヨーガンレール ■那覇造形美術学院 ■JICA ■（株）INAX ■白山陶器（株） ■琉球朝日放送（美術スタッフ） ■リウボウインダストリー ■洋菓子無花果（パティシィエ） ■セルフサポートセンターぴゅあ ■アッシュ・ペー・フランス（株） ■（株）ゆう工房 ■雅織工房 ■（株）MCS ■窪田織物（株） ■（有）島津漆器彩色工房 ■久留米絣織元下川織物 ■書道教室 ■沖縄県工芸振興センター ■南風原文化センター ■小学校教員 ■中学校教員 ■高等学校教員 ■有田窯業大学校教員 ■常滑市陶芸研究所教員 ■沖縄県立芸術大学 ■他

音楽学部／大学院

声楽専攻

■ヴァイマール歌劇場専属歌手 ■新国立劇場合唱団員 ■鹿児島国際大学講師 ■琉球朝日放送（株） ■SDA東西学園 ■音楽教室 ■県内の小学校・中学校・高等学校教員 ■沖縄県立芸術大学（教員・助手・非常勤講師・職員） ■他

器楽専攻

■レックリングハウゼン州立シンフォニーオーケストラ ■マインツ市祝典オーケストラ ■東京交響楽団 ■山形交響楽団 ■大阪交響楽団 ■広島交響楽団 ■東京吹奏楽団 ■神奈川県警察音楽隊 ■陸上自衛隊第15音楽隊 ■航空自衛隊 ■ヤマハ（株） ■ヤマハ音楽振興会 ■ヤマハ音楽教室 ■カワイ音楽教室 ■（株）アーツポート企画 ■三越 ■三井住友銀行 ■熊本銀行 ■KAJIMOTO ■日本食研 ■郵便局 ■市役所 ■小川楽器 ■ピアノ講師 ■ミュージックプラザ ■十勝毎日新聞 ■（株）ヤマダヤ ■合同会社PVHジャパン ■とさでん交通（株） ■（公財）名古屋市文化振興事業団 ■音楽教室（自営） ■フリーランス演奏家 ■デトモルト音楽大学非常勤講師 ■洗足学園音楽大学非常勤講師 ■県立特別支援学校教員 ■県内外の小学校・中学校・高等学校教員 ■沖縄県立芸術大学教職員・非常勤講師・嘱託員 ■他

音楽学専攻

■国立劇場おきなわ ■那覇バス(株) ■（株）花水木コーポレーション ■琉球朝日放送（株） ■琉球放送（株） ■伊豆急行(株) ■ザ・プセナテラス ■野村證券株式会社 ■県内舞台製作会社 ■楽譜製作工房 ■浦添市職員（行政職） ■県内外の小学校・中学校・高等学校教員 ■沖縄県立芸術大学非常勤講師

琉球芸能専攻

■（公財）国立劇場おきなわ（芸術監督・嘱託員） ■NPO法人団体 ■沖縄市民小劇場あしびなー ■沖縄タイムス社 ■組踊・琉球舞踊小道具製作工房 ■三線製作・店舗経営 ■三線漆塗・店舗経営 ■飲食店経営　■（一財）沖縄美ら島財団 ■（株）沖縄富士通システムエンジニアリング ■ルネッサンスリゾートオキナワ　■（株）Pix ■（株）アカネクリエーション ■那覇空港ビルディング（株） ■国際日本文化研究センター ■沖縄県南部医療センター ■看護師 ■介護士 ■郵便局職員 ■吉本興業（株） ■柳都振興（株） ■音楽活動（自営）　■琉球大学非常勤講師 ■県内役所・役場（職員・臨時） ■沖縄県公立養護学校教師 ■県内の小学校・中学校・高等学校（教員・臨時・非常勤講師・事務職員） ■沖縄県庁職員・臨時的任用職員 ■豊見城市社会福祉協議会 ■沖縄県立芸術大学教職員・非常勤講師・嘱託員　他

活躍する卒業生 *Message from Alumni*





渡邊 智子(わたなべ　ともこ)

現代美術作家
(岐阜県出身)
2008年　沖縄県立芸術大学美術工芸学部絵画専攻卒業
2008年　「第19回沖縄芸術大学卒業作品展」　沖縄県立芸術大学作品 買い上げ賞受賞
2013年　個展「espoir 07渡邊智子」極小美術館(岐阜)
2016年　ART CIRCLE in Brda(スロベニア)
　　「現代日本美術展」 リュブリアナ市立図書館(スロベニア)
2017年　願成寺古墳群美術展 (岐阜)
2018年　個展「E-CUS project〈TOMOKO WATANABE〉」uzna omom b one(東京)
　　「対流風景 Convective　Scenery」53美術館(中国)
2019年　中之条ビエンナーレ2019(群馬)　※2017、2015、2013も出品

3年目の受験で初めて沖縄を訪れました。それまでは行ったこともありませんでしたが、なじみのない地へ行きたいと思ったのです。コンクリートの壁が白く反射する光がまぶしかったのを今も覚えています。大学があった首里の丘を海に向かって原付バイクで走る。まるで空を飛ぶような気持ちよさ。そんな、いつでも気分転換できる美しい景色と故郷からはなれた環境が自分の表現したい事と集中して向き合える場を作っていました。教授や仲間との距離も近く、ディスカッションも盛んでした。3年生になる頃には言いにくいことまで伝えられる関係になっていたと思います。カリキュラムで多岐にわたった課題に取り組んだことが、今の制作の引き出しになっています。卒業作品展では絵画的空間性と現実の空間との関わりを構築するインスタレーション「現地」を発表しました。現在も私にとっての「現地」を制作し続けています。表現について考えこんでしまうこともありますが、作品を作ることでたくさんの人との出会いがあることは喜びの一つです。





水野 華子(みずの　はなこ)

会社員
2019年 デザイン専攻卒業
2019年 そら植物園入社

元々は建築やランドスケープに興味があり、本校デザイン専攻に入学しました。大学では、環境デザインやプロダクトデザインを中心に様々な分野を学ぶことができ、その学んできたことは現在の仕事にも非常に活きていると感じています。
現在勤めている会社では企画広報部のデザイナーとして入社し、主にデザインパースの作成や商品開発などに取り組んで参りましたが、大学で写真や映像を学んだこともあり、現在ではイベント時にカメラマンとしての役割を担うことも増えてきました。
領域の広いデザインを選択して学べる本学のデザイン専攻だからこそ、今まで自分が全く知らなかったまたは、元々興味を持てなかった新たな分野を知るチャンスがたくさんあり、自分の可能性も広がったのだと卒業してからとても実感しています。
まだ社会に出て日が浅く勉強の毎日ですが、４年間で培ったものを糧に今後も成長していけたらと思います。在学生の皆さんも将来の糧になるような、実りある大学生活を過ごせるよう願っています。





提供：びわ湖ホール

宮城 朝陽(みやぎ　あさひ)

声楽家(テノール)
(沖縄県出身)
2016年　沖縄県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業
2016年　全日本学生音楽コンクール北九州大会第1位、および全国大会入選
2017年　おきでんシュガーホール新人演奏会入選
2018年　飯塚新人音楽コンクール声楽部門第3位
2019年　沖縄県立芸術大学大学院演奏芸術専攻声楽専修修了
2019年より　びわ湖ホール声楽アンサンブル・メンバー

私は現在、びわ湖ホール声楽アンサンブルに所属しています。アンサンブルやオペラ、ソリストとしてオーケストラとの共演など、様々な演奏する場をいただいており、日々精進しております。びわ湖ホールだけではなく、新国立芸術劇場、東京文化会館など日本有数のホールで歌わせていただく機会もありました。声楽を仕事にできているのは、大学時代に先生方の指導の下、基礎からしっかり学べたおかげです。また、自分のペースで音楽と向き合い続けたことが、成長につながったと思います。学生の内から学校だけにとどまらず、コンクールや外部の演奏活動など、積極的に自分から挑戦していくことも大事です。これからも現状に満足することなく、様々なことを吸収して、より良い歌い手になれるように努力していきます。私の誇りである沖縄県立芸術大学のために少しでも恩返しになれば幸いです。





池間 北斗(いけま ほくと)

琉球伝統箏曲琉絃会師範
(沖縄県出身)
2008年　国立劇場おきなわ第一期組踊研修事業修了
2011年　沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻卒業
2017年　沖縄タイムス芸術選奨箏曲の部最高賞受賞
2017年　第24回賢順記念全国箏曲コンクール賢順賞受賞

小学校1年生の時に又吉貞子師と出会い、琉球箏曲との人生がスタートしました。芸大に進学し、「箏」に関する授業が一番楽しかったです。琉球古典音楽実技(箏)だけでなく、副科実技で生田流箏曲を受講できたことは、とても大きな財産となりました。
現在は、琉球舞踊や組踊の地謡を中心に活動しています。また、他ジャンルのコラボレーションも経験し、「箏＝器楽」の可能性をもっと追究したいと考えるようになりました。
2017年12月に福岡県で行われた「第24回賢順記念全国箏曲コンクール」で第1位にあたる賢順賞を受賞できたことはとても嬉しく、琉球箏曲を全国に広めることができました。
今後は、琉球箏曲の魅力をさらに発信したいと考えます。

国際交流 *International Exchange*

海外姉妹校との交換留学

芸術・学術交流協定締結大学

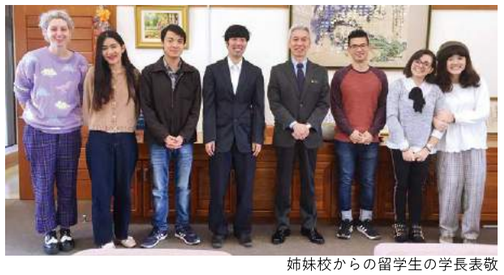
国際的視野に立った芸術家・研究者を育成するために、海外の大学と芸術・学術交流協定を結び、学部・大学院の優秀な学生を対象とした単位互換も可能な交換留学を推進しています。協定大学とは、展覧会や演奏会活動等を含めた教員間の研究交流にも積極的に取り組んでいます。

姉妹校（７カ国・地域11校）

福建師範大学（中国）、中国音楽学院（中国）
ミュンヘン造形芸術大学（ドイツ）、
ブレーメン国立芸術大学（ドイツ）
Ｃ．モンテヴェルディ音楽院（イタリア）、
ミラノ・ビコッカ大学（イタリア）
チェンマイ大学美術学部（タイ）
国立台北芸術大学（台湾）、国立台湾芸術大学（台湾）
インドネシア国立芸術大学デンパサール校（インドネシア）
ハワイ大学マノア校（アメリカ）

交換留学

令和元年度の姉妹校留学実績としては、本学の学生をドイツへ２名、インドネシアに１名派遣し、、イタリアから２名、ドイツから1名、タイから2名、台湾から３名の留学生を受け入れました。姉妹校への留学は、協定校への交換留学生ということで、通常の私費留学などに比べて、事前に多くの情報も入手でき、サポート体制が充実しています。また、留学先で取得した単位を本学の単位として認定できる可能性もあります。留学中は休学ではなく、本学に在籍中とみなされ、その期間は卒業までに必要な在学期間に参入されます。つまり、留学しても4年間で卒業することが可能です。在学中に、積極的に海外からの留学生や留学した先輩と交流を深め、より多くの学生が姉妹校留学へチャレンジしてくれることを期待しています。



姉妹校からの留学生の学長表敬



デザイン専攻授業風景

大学間国際交流事業の成果

インドネシア国立芸術大学との学術交流

本学とインドネシア国立芸術大学デンパサール校は、平成24年(2012)に学術交流協定を締結しました。これまで、デンパサール校から多くの教員・学生が本学を訪れており、バリの伝統楽器であるガムラン演奏会や、インドネシア伝統工芸展示会などが開催されています。
令和元年（2019）9月には本学とイベント趣旨に賛同頂いたデンパサール校を含む6大学の教員・学生等による「ドローイングコミュニケーション2019」が開催され、作品展示・ワークショップ・ディスカッション等が行われました。また、デンパサール校副学長と本学教員・学生によるバリガムラン・舞踊演奏会も行われ、全学的な交流が進められました。

国立台湾芸術大学との学術交流

本学と国立台湾芸術大学は平成８年（1996）に美術工芸学部から交流が始まり、平成28年（2016）には正式な学術交流協定を締結しました。
平成29・30年度には「台湾・沖縄県立芸術大学交流展」が開催され、両学教員が制作した美術・デザイン・工芸分野の作品展示等が行われました。また、令和元年（2019）5月には、本学で「国立台湾芸術大学中国音楽学科　絲竹楽団演奏会」が開催され、同大学から訪れた教員・学生と本学琉球芸能専攻学生との演奏会・ワークショップが行われました。
今後も、沖縄の地理的特徴を生かした国際交流が期待されます。



国立台湾芸術大学との交流
（絲竹楽団　演奏会）

ハワイ大学マノア校との学術交流

本学とハワイ大学マノア校は平成28年（2016）に学術交流協定を締結しました。協定は教員・学生の交流、共同研究プログラム等での協力推進を目的としており、同年には協定締結を記念してハワイでの公演会・展示会等が実施され、本学で所蔵する着物類、陶磁器、工芸作品、それらの写真・映像資料が展示されたほか、琉球古典芸能や民俗芸能創作舞踊などを披露し、その魅力を伝えました。
現在は、協定締結を契機としてハワイでのハワイ語復興をモデルとした本学でのしまくとぅば教育への活用について共同研究が進められています。

学費・奨学金 *Tuition and Scholarships*

【入学料・授業料等】

※令和２年４月１日現在

区分	授業料聴講料	入学料	
		県内居住者	その他の者
学部学生	年額 535,800円	282,000円	512,000円
大学院生	年額 535,800円	282,000円	512,000円
研 究 生	月額　29,700円	84,600円	153,600円

備考／県内移住者とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。
(1)入学の日の１年以前から引き続き県内に住所を有する者。
(2)入学の日の１年以前から引き続き県内に住所を有する配偶者または１親等の親族のある者。
※在学中に授業料改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。
※高等教育の修学支援新制度の対象者のほか、県の条例に基づいて入学料、授業料が減免された者は、その額が適用されます。
※大学院に入学する者のうち、社会人等で履修期間を延長する長期履修制度の適用が認められた者は、その期間に応じた授業料が適用されます。

■授業料以外に必要な経費

1. 美術工芸学部

実習経費（４年間分）は右表のとおりです。入学時に一括して納入し、過不足が生じた場合は入学後調整することになります。
※卒展経費含む

専攻		実習経費	学外研究費
絵画専攻	油　画	300,000円	180,000円
	日本画	320,000円	180,000円
彫刻専攻		330,000円	180,000円
芸術学専攻		70,000円	160,000円
デザイン専攻		170,000 円	180,000円
工芸専攻		320,000円	180,000円

2. 学外研究費

各専攻とも２年次あるいは３年次に予定している必修科目の経費として、180,000円（芸術学専攻は160,000円）を入学時に納入し、過不足が生じた場合は、入学後調整することになります。

【奨学金】

奨学金は、学業成績優秀な学生であって経済的理由により修学に困難がある者に対し、学資として貸与等がなされるものです。
奨学金には、（独）日本学生支援機構奨学金、（公財）沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金、（公財）沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金、地方公共団体等の奨学金、その他民間団体による奨学金等があります。

（独）日本学生支援機構奨学金（貸与）［http://www.jasso.go.jp/］

多くの学生が利用している奨学金です。
本学では、貸与希望者向け説明会を４月に開催しています。

【学部】

奨学金の種類	貸与の方法	貸与金額	
		自宅通学	自宅外通学
第一種奨学金（利息の無いタイプ）	月額	45,000円	51,000円
		20,000円 30,000円 40,000円	
第二種奨学金（利息が付くタイプ）		20,000円～120,000円（1万円単位）から選択	
入学時特別増額貸与奨学金	一時金	100,000円～500,000円（10万円単位）から選択	

【大学院】

奨学金の種類	貸与の方法	貸与金額	
		修士課程	博士課程
第一種奨学金（利息の無いタイプ）	月額	50,000円 88,000円	80,000円 122,000円
第二種奨学金（利息が付くタイプ）		50,000円、80,000円、100,000円 130,000円、150,000円	
入学時特別増額貸与奨学金	一時金	100,000円～500,000円（10万円単位）から選択	

（独）日本学生支援機構奨学金（給付）［http://www.jasso.go.jp］

高等教育の修学支援新制度の対象者に対し、奨学金を給付します。
【学部生のみ】

給付額：自宅通学者　月額　25,000円
　　自宅外通学者　月額　30,000円

（公財）沖縄県立芸術大学芸術振興財団奨学金（給付）

沖縄県立芸術大学に在学する学生（姉妹校派遣及び受入留学生を含む）で、人物、学業ともに優れ、学資の支弁が困難と認められる者（他から奨学金の貸与又は給付を受ける者を除く。但し留学生はこの限りではない。）

（公財）沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金（貸与）

沖縄県に本籍または住所を有する者の子弟で、人物、学業ともに優れ、かつ健康であり学資の支弁が困難と認められる者。他から奨学金の貸与を受けていない者。

貸与額：学部生　月額　40,000円
　　修士課程　月額　70,000円
　　博士課程　月額　80,000円

その他、地方公共団体、民間団体による奨学金

各市町村育英会等からの募集については、直接希望者が出願するのがほとんどです。また、それぞれ応募期間、申込先、応募資格等が異なります。
各民間団体からの募集については、その都度、応募期間等について掲示板にてお知らせ致します。

学生生活サポート *Student Support*

保健室

保健室では、心身ともに健康で充実した大学生活が送れるようサポートしています。
毎年５月に定期健康診断を実施するほか、ケガや病気の応急処置はもちろんのこと、健康上の不安やこころの悩みなどの相談窓口にもなっています。
また、体調の維持・管理のための食事（栄養）相談や、身長、体重、血圧などの測定ができます。もし、気分が悪いときはベッドで休養もできますので、気軽にご利用ください。

学生相談室

大学生という新しい環境に馴染むには不安と緊張が伴います。学生相談室では、大学生活を送る上で抱える様々な悩みや迷いについて、専門のカウンセラーが話をうかがいます。
劣等感や人見知りなど、こころの問題をはじめ、学業、人間関係、自身の成長、不安やストレスによる心身の症状、障がいによる困り感などがあれば、一人で抱え込まずに気軽にご相談ください。



ハラスメント相談

大学生活において人間関係のコミュニケーションや信頼関係をより良いものとするため、学生・教職員のハラスメントに関する学内相談員を設置しています。随時相談を受け付けており、プライバシーを重視し、面談を行っています。

公聴について

学長のメールアドレスを公開しているほか、学内（当蔵、金城、崎山キャンパス）の事務局窓口前にご意見箱を設置し、随時意見を受け付けております。（匿名可）
意見への対応については、学内で審議し、結果を掲示により公表しております。
また、毎週火曜日に学長オフィスアワーを設け、学長と学生の交流による学内の環境改善を図っております。

進路情報コーナー

進路情報コーナーには、就職支援アドバイザーがおり、それぞれの希望に沿ったきめ細やかな支援を行っております。



国際交流室

国際交流室では、受入留学生の支援はもとより、本学から姉妹校へ派遣する学生の様々な相談に応じます。例えば、姉妹校で学べる授業の内容や具体的な志願の方法（申請書、志望動機、研究計画の書き方やそれらの文書の翻訳）を支援します。また、パスポート、学生ビザの取得や現地での住居の検索をサポートします。国際交流室には、先輩方の体験談も含め現地での生活費や日常の過ごし方、困ったこと良かったことなど多様な資料が蓄積されているので、様々な海外情報を提供できます。さらに、ヨーロッパ、中南米やアジアから留学生を受け入れているので彼らと本学学生の交流を促進する役割を担っています。



学生食堂

当蔵キャンパス福利厚生棟地下にある学生食堂は、日替わり定食、沖縄そばといった定番メニューを手頃な価格で提供しています。授業や研究に忙しい学生たちの食生活を支えているほか、一般の方にも開放されており、誰でも気軽に利用できる食堂となっています。



入試情報

詳しくは、ホームページ等でご確認ください。

ホームページアドレス http://www.okigei.ac.jp/examination/examination-index.html

1 一般選抜【全学部専攻、大学院実施】
実技試験と学力試験および調査書（大学院調査書は無し）等により総合的に判断し、選抜を行っております。

2 学校推薦型選抜【彫刻専攻を除く除く全学部全専攻実施】
大学入学共通テストを免除し、出身学校長の推薦書等による第1次選考後、実技試験及び音楽に関する基礎能力試験等による第2次選考を行います。

3 社会人選抜【音楽学部音楽学科琉球芸能専攻のみ実施】
大学入学共通テストを免除し、志願理由書等の内容、小論文、実技及び面接等により総合的に判断します。

令和2年度入試日程

一般選抜・学校推薦型選抜・私費外国人留学生選抜・社会人選抜

選抜方法		学部（専攻）	出願期間	選抜期日
一般選抜（学部）	前期日程	美術工芸、音楽	令和3年1月25日（月）～2月3日（水）	令和3年2月25日（木）～2月27日（土）
	後期日程	美術工芸（絵画・彫刻・工芸）	令和3年1月25日（月）～2月3日（水）	令和3年3月12日（金）～3月14日（日）
学校推薦型選抜（学部）		美術工芸（絵画・芸術学・デザイン・工芸）	令和2年11月1日（日）～11月8日（日）	令和2年11月21日（土）・11月22日（日）
		音　楽	令和2年11月1日（日）～11月8日（日）	令和2年11月21日（土）・11月22日（日）
私費外国人留学生選抜（学部）		美術工芸、音楽	令和3年1月25日（月）～2月3日（水）	令和3年2月25日（木）～2月27日（土）
社会人選抜（学部）		音　楽（琉球芸能）	令和3年1月25日（月）～2月3日（水）	令和3年2月25日（木）～2月27日（土）

大学院入試

研究科		専　攻	出願期間	選抜期日
造形芸術研究科（大学院・修士）	9月試験	比較芸術学（一次募集）	令和2年7月27日（月）～8月3日（月）	令和2年9月5日（土）～9月6日（日）
	2月試験	生活造形、環境造形、比較芸術学（二次募集）	令和3年1月4日（月）～1月12日（火）	令和3年1月30日（土）～1月31日（日）
音楽芸術研究科（大学院・修士）		舞台芸術、演奏芸術、音楽学	令和2年9月18日（金）～9月25日（金）	令和2年10月24日（土）～10月25日（日）
芸術文化学研究科（大学院・博士）		芸術文化学	令和3年1月18日（月）～1月22日（金）	令和3年2月28日（日）～3月1日（月）

本学への問合せ・資料請求方法

ホームページアドレス http://www.okigei.ac.jp/examination/ex-order.html

入試案内については、本学が発行する
下記の資料で確認してください。

※発送開始時期と送料については、変動することがあります。

資　料　名	発送開始時期	資料請求先 インターネット	テレメール	本学
大学案内	4月中旬	○	○	○
入学者選抜要領	6月上旬	○	○	○
推薦入試学生募集要項	7月下旬	○	○	○
音楽学部試験曲	8月上旬	○	○	○
学生募集要項 ●一般入試 ●社会人入試 ●私費外国人留学生入試	8月下旬	○	○	○
造形芸術研究科学生募集要項	9月下旬	○	○	○
音楽芸術研究科学生募集要項	6月下旬	○	○	○
芸術文化学研究科学生募集要項	10月下旬	○	○	○

資料の請求方法

①インターネット:テレメールwebアドレスを用いて請求してください。
○テレメールwebアドレス/http://telemail.jp/

②テレメール:24時間コンピュータ音声による受付を行っています。本学の資料請求番号を用いて請求してください。
○テレメール番号　IP電話050-8601-0101
※IP電話への通話料金は、電話回線からは日本全国どこからでも3分ごとに約11円。
○資料番号: 大学案内+入学者選抜要項　568301
学生募集要項（美術工芸部）　588321
学生募集要項（音楽学部）　588331
音楽学部試験曲　588311

③本学へ直接請求:発送開始時期に応じて本学へ直接請求することができます。また、郵送依頼も可能ですが、電話での郵送依頼には応じておりません。
○本学窓口での請求は無料です。
○郵送依頼:封筒の表に「入学者選抜要項請求」など請求する資料名を朱書きする。返信用封筒（角形2号・33cm×24cm）に請求者の郵便番号・住所・氏名を明記して所要の切手を貼って同封すること。

請求先　〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1丁目4番地　沖縄県立芸術大学事務局教務学生課　電話（098）882-5080

アクセスマップ

沖縄県立芸術大学の位置 *Location of the Okinawa Prefectural University of Arts*



沖縄県立芸術大学周辺略図

